



ユーザーガイド

4・8・16 チャンネル

AHD Digital Video Recorder

LHR-0410F / LHR-0810 / LHR-1620



目次

本書について.....	5
免責事項について.....	5
注意事項と警告事項.....	5
使用上のご注意.....	6
概要.....	7
商標と登録商標.....	7
第1章 はじめに.....	8
1-1 項 [設定メニュー].....	10
1-2 項 [フリーズ].....	10
1-3 項 [アラームイベント].....	10
1-4 項 [再生]/[バックアップ].....	12
1-4-1 項 [再生].....	13
1-4-2 項 [バックアップ].....	15
1-5 項 コンテキストメニュー.....	17
1-5-1 項 [ストリーム情報表示].....	17
1-5-2 項 [アラーム停止].....	18
1-5-3 項 [PTZコントロール オン/オフ].....	18
1-5-4 項 [イメージング設定].....	19
1-5-5 項 [切り替えモード 無効/有効].....	19
1-5-6 項 [シャットダウン].....	20
1-5-7 項 [アカウント ログイン/ログアウト].....	20
第2章 システム設定.....	21
2-1 項 [一般].....	21
2-2 項 [時間].....	22
2-3 項 [ユーザー].....	23
2-4 項 [ストレージ].....	25
2-4-1 項 [HDD 情報].....	25
2-4-2 項 [S.M.A.R.T.].....	27
2-4-3 項 [USB 情報].....	27
2-5 項 [イベント].....	28
2-5-1 項 [システム].....	28
2-5-2 項 [操作中].....	30
2-5-3 項 [アラーム].....	31
2-6 項 [メンテナンス].....	31
2-6-1 項 [ファームウェアアップデート].....	32
第3章 ネットワークの設定.....	33

3-1 項 [一般].....	33
3-2 項 [詳細].....	35
3-2-1 項 [P2P].....	35
3-3 項 [E メール送信].....	36
3-4 項 [FTP 転送].....	38
3-5 項 [DDNS].....	39
3-6 項 [その他].....	40
第 4 章 カメラの設定.....	41
4-1 項 [一般].....	41
4-2 項 [ビデオ].....	43
4-3 項 [詳細].....	43
4-4 項 [マスキング].....	44
第 5 章 録画設定.....	45
5-1 項 [一般].....	45
5-2 項 [スケジュール].....	45
5-3 項 [詳細].....	46
第 6 章 アラーム設定.....	47
6-1 項 [一般].....	47
6-2 項 [検知エリア].....	48
6-3 項 [アラーム出力].....	48
6-3-1 項 [アラーム時警告灯].....	48
6-3-2 項 [ブザー音].....	49
6-3-3 項 [E メール送信].....	49
6-3-4 項 [FTP 転送].....	50
6-3-5 項 [通知].....	50
6-3-6 項 DO#1(手動 DO 操作).....	51
第 7 章 表示設定.....	52
7-1 項 [一般].....	52
7-2 項 [詳細].....	54
7-3 項 [シーケンス].....	54
第 8 章 PTZ 設定.....	55
8-1 項 [一般].....	55
第 9 章 その他の設定.....	56
9-1 項 [スマートフォン].....	56
第 10 章 ストリーム.....	57
10-1 項 [ライブ].....	57
10-2 項 [再生].....	58
10-3 項 [バックアップ].....	59

付録.....	59
IPVideo のインストール.....	59


本書について

本書では、LHR デジタルビデオレコーダシリーズの操作方法を説明します。


免責事項について

株式会社ティービーアイは取扱説明書の完全性について万全を期しておりますが、その内容について公式に保証するものではありません。この取扱説明書の使用およびその結果については、すべてユーザーが責任を負うことになります。本製品の仕様は製品の性能向上のために予告なく変更されることがあります。

注意事項と警告事項

 **注意** 指示事項を守らない場合は、軽傷を負ったり、製品が損傷したりする可能性があります。

- 必ず仕様書で規定された電源電圧、消費電力を供給可能な電源供給機器(POC ユニット)または電源アダプターを使用してください。
規格外の電源供給機器(電源アダプター)を使用すると、火災、感電、製品の故障の原因になります。
- 設置は専門の工事業者に依頼してください。設置については、販売店にご相談ください。
壁や天井などへの設置は、安定な場所に、本機と取り付け金具を含む重量に十分耐えられることをご確かめください。十分な強度がないと、落下して、大けがの原因となります。
- 配置や配線工事の時に、屋内の配線や配管を傷つけないよう十分気を付けてください。
屋内配線、配管の傷は、火災、感電、漏電の原因になります。
- 機器や部品の取り付けは正しく行ってください。
正しく行わないと、本機や部品が落下して大けがの原因となることがあります。
- 電源コードや接続ケーブルに重い物を載せたり、ドアなどに挟み込むなどをして、傷つけないようにしてください。
電源コードや接続ケーブルを傷つけると、火災、感電の原因になります。
- 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所や仕様書に記載されている使用条件以外の環境に設置しないでください。火災、感電の原因になることがあります。
- 本機器の開口部を布やプラスチックで覆ったり、換気の悪い場所に本機器を設置しないでください。本機器の周囲には 10 cm のスペースを確保してください。
- 煙や異臭がある、電源を入れても画面に何も表示されないなどの異常がある状態で、本機器を使用し続けしないでください。
- 使用する HDD は、弊社指定のものをお使いください。
- 付属の電源コードは本装置専用です、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本装置に使用しないでください。

 **警告** この事項を守らない場合、死亡や重症を負う恐れがある内容です。

- 分解や改造をしないでください。分解や改造をすると、火災、感電、けがの原因となることがあります。
内部点検や修理は、販売店にご依頼ください。
- 直射日光に当たる場所、熱器具の近くにはおかないでください。
- 内部に水や異物を入れないでください。水や異物が入ると火災、感電の原因になることがあります。
- 接続の際には電源を切ってください。電源を入れたまま電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。
- 移動の際は電源コードや接続コードを抜いてください。接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。

使用上のご注意

- 次のような使用は避けてください。故障の原因になります。
 - ・ 極端に暑い場所や寒い場所（使用動作温度範囲外）
 - ・ 強い磁気を発するものの近く
 - ・ 強力な電波を発する送信所の近く
 - ・ 強い振動、衝撃のある場所
 - ・ 湿気、埃の多い場所
- 動体検知を使用する際は、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してください。
- 本冊子は品質保証ではなく、製品の使用説明書です。当社は、誤植、最新バージョンの不一致、ソフトウェアのアップグレードおよび製品の改良、解釈および変更を修正する権利を留保することがあります。これらの変更は特別な通知なしに最新バージョンで公開されます。
- 本製品を使用する際、Microsoft、Apple、Google の関連コンテンツが使用されます。本マニュアルの写真やスクリーンショットは当社製品の使用方法を説明するために使用されます。Microsoft、Apple、Google に関連する商標、ロゴ、その他の知的財産の所有権は、上記の企業に帰属します。

注意

電池の交換時に種類を間違えると爆発の危険があります。
使用済みの電池は指示に従って廃棄してください。



概要

LHR DVRシリーズは、HDアナログカメラの管理用のスタンドアロンソリューションを実現するデジタルビデオレコーダです。内蔵の高画質エンコーダー/デコーダーは、1080p/720p/D1/CIFのカメラストリームに対応できます。各チャンネルは、ユーザーのニーズに応じてSDまたはHDの解像度で録画するように個別に設定できます。

LHR DVRシリーズは、TCP/IPネットワークを使用してあらゆる環境に容易に設置できます。自己診断機能は、残りの録画時間を推定したり、HDD S.M.A.R.Tの状態、ネットワークの状態、その他の情報を監視できます。

DVRで録画されたファイルは、USBフラッシュメモリにエクスポートできる他、Backup Manager、Remote Player、FTPクライアントソフトウェア、あるいはNetwork経由でダウンロードすることもできます。iOSとAndroidのスマートフォンに対応しているため、接続されているカメラの映像を遠隔地から高フレームレートで見ることができます。また、ブラウザーベースのHTML5ライブ監視機能とビデオ再生機能も、さまざまなブラウザーに対応しています。

- スタンドアロン DVR
- 最大 1920x1080 の記録画像をサポート
- HDMI、VGA 出力をサポート
- iOS と Android のビューワーアプリをサポート
- さまざまなブラウザーでの HTML5 ストリーム配信をサポート
- アラームと動き検出を容易に設定可能
- 容易な P2P リモートアクセスをサポート

商標と登録商標

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国および/またはその他の国におけるマイクロソフト社の登録商標です。

Adobe、Adobe PDF は、米国および/またはその他の国におけるアドビシステムズ社の登録商標です。

JavaScript および Java を使用したすべての商標およびロゴは、米国および/またはその他の国におけるサンマイクログシステムズ社の商標または登録商標です。

Linux、Macintosh、Mozilla は、商標権を保有する該当各社の登録商標です。

本書に記載の企業名および各社の商品名は、商標権を保有する該当各社の商標または登録商標である可能性があります。




第 1 章 はじめに

LHR の電源を入れると、HDMI または VGA 接続を介して次のような画面が表示されます。






画面の上部に表示される情報を、以下に示します。

1. 分割画面 / シーケンシャル名:
現在の分割画面/シーケンシャル名が表示されます。(初期値: 非表示)
2. システム日付/時刻
3. HDD:
上には現在録画に使用されているハードディスクドライブの番号が表示されます。
下には使用されている記憶容量(%)が表示されます。
4. ネットワークの状態:
上の Rx は受信スループット(Mbps)、下の Tx は送信スループット(Mbps)です。
円の色と意味は次のとおりです。

 緑:ギガ	 オレンジ: 100Mbps	 赤:エラー状態
--	---	---

(ギガ対応は LHR-1620 のみです。)

5. 画面表示

	録画をしていることを示します。
	モーション検知したことを示します。
	アラーム入力を検知したことを示します。

マウスカーソルを動かすと(次の図のように)LHR を操作するためのコントロールが表示されます。



画面最下部に表示されるコントロールについて、次の表に示します。

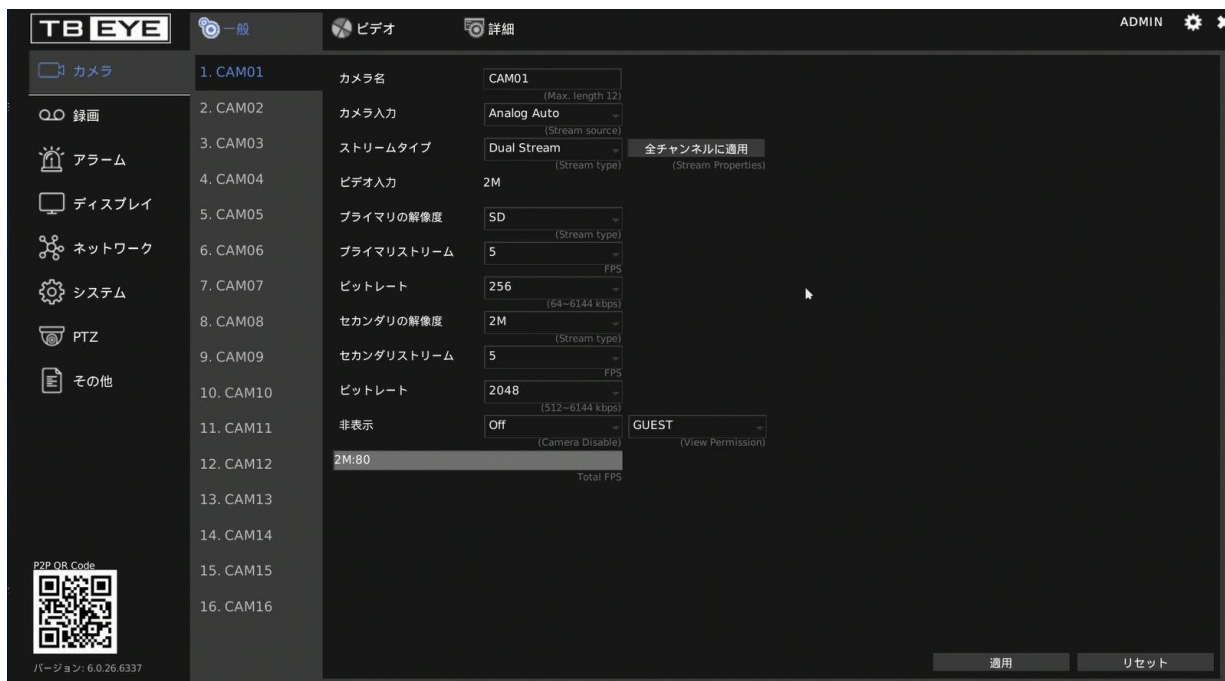
アイコン	説明
	画面の分割数を指定します。
	クリックするとシーケンシャルモードが有効になり、ユーザーが指定した順にビデオチャンネルが表示されます。
	クリックすると音声のオン/オフが切り替わります。
	クリックすると特定の DO 出力を有効にできます。(初期値:非表示)


画面左上隅に表示される LHR コントロールについて、次の表に示します。

アイコン	説明
	設定メニュー
	フリーズ
	再生/バックアップ
	スケジュール/手動:現在の録画設定がスケジュール指定録画であるか手動録画であるかを示します。クリックすると切り替わります。

1-1項 [設定メニュー]

設定メニューを下に示します。



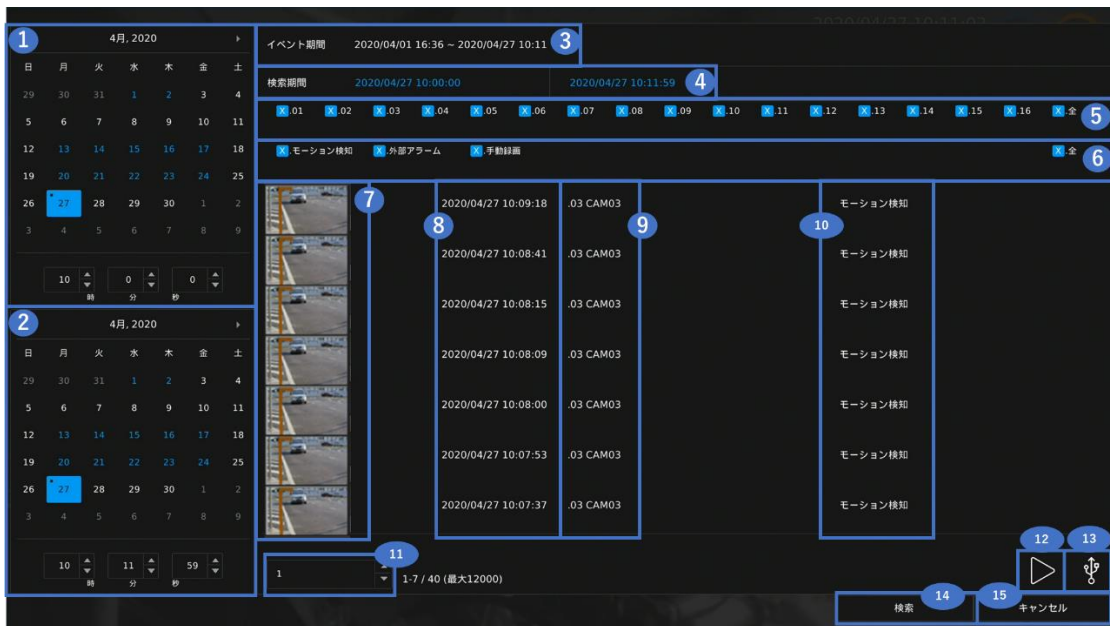
備考: 画面右上隅のギアの形のアイコン  をクリックすると LHR の言語を切り替えることができます。

1-2 項 [フリーズ]

クリックするとライブビデオが停止し、アイコンが青で強調表示されます。



1-3 項 [アラームイベント]

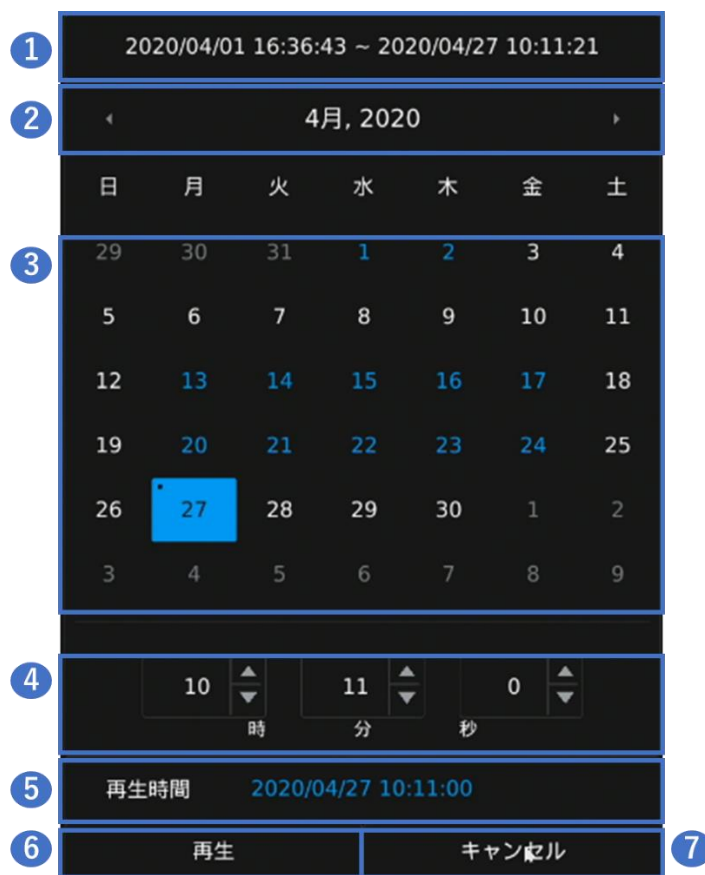
クリックすると[アラームイベント]ページが開きます。カメラのアラーム機能が有効になっている場合は、発生したすべてのアラームがイベント履歴に記録されます。録画モードを[スケジュール]から[手動]に切り替えると、“手動録画”項目もイベント履歴に保存されます。リストは、イベント発生の順番です。







1. 期間の開始日時の選択: イベントを検索する期間の開始日時を選択します。
2. 期間の終了日時の選択: イベントを検索する期間の終了日時を選択します。
3. **[イベント期間]**: 録画されたイベントの期間
4. **[検索期間]**: 検索期間を表示します。
5. チャンネル番号: 検索するチャンネル番号を選択します。
6. 検索するイベントのタイプ: 検索するイベントのタイプを選択します。
7. プレビュー: トリガーされたイベントのスナップショット
8. イベントの日時: イベントが録画された日付と時刻
9. イベントのチャンネル番号とチャンネル名
10. イベントのタイプ: 録画されたイベントのタイプ
11. ページの番号: 画面に表示されているページ数
12. **[再生]**: クリックすると選択されているビデオを再生します。
13. **[バックアップ]**: クリックすると[バックアップ]ページが開きます。
14. **[検索]**: クリックするとイベントの検索を開始します。
15. **[キャンセル]**: クリックするとイベントページを閉じてライブビューに戻ります。

1-4 項 [再生]/[バックアップ]

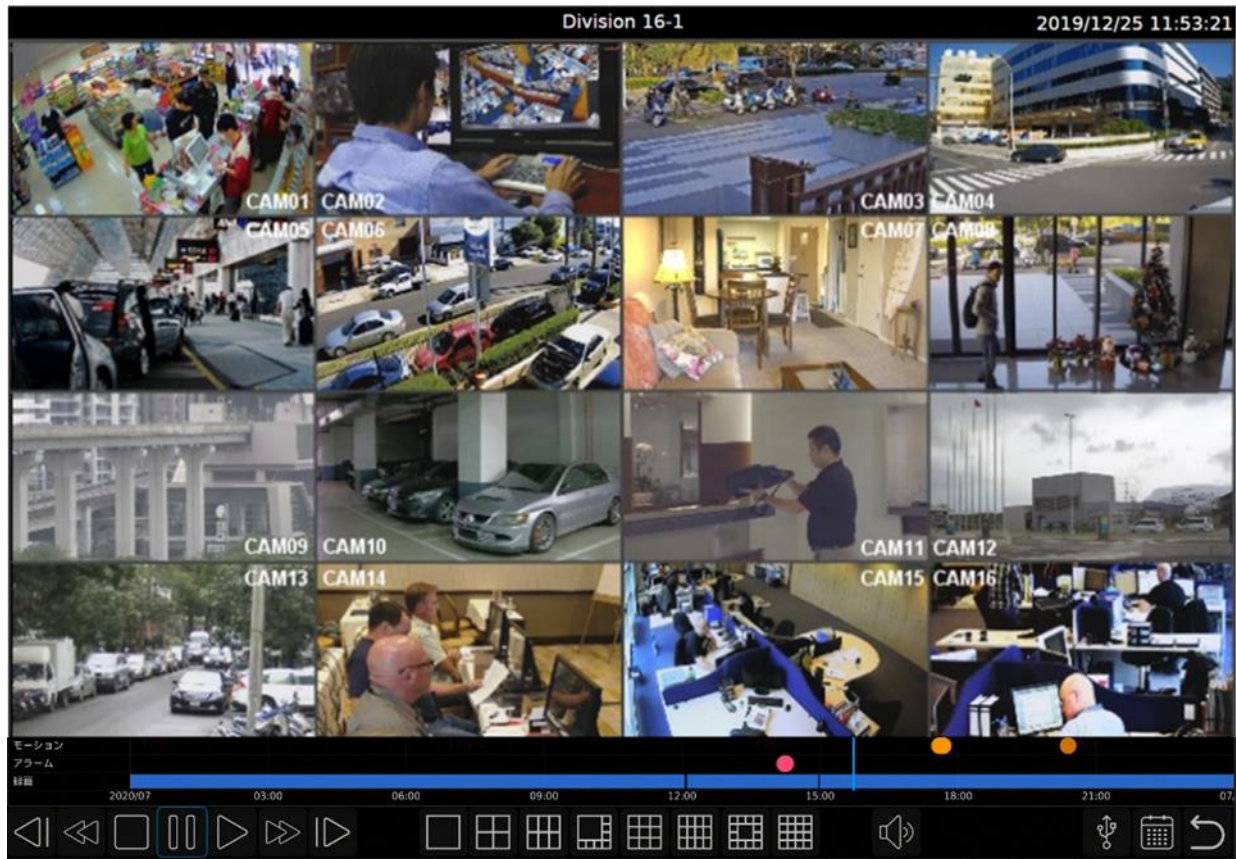
[再生]/[バックアップ]  を押すと次の図の様な[再生]ページが開きます。表示されない場合は、カレンダーアイコン  をクリックします。



1. 録画された期間: データが録画された期間
2. 月の選択: 左/右の矢印キーをクリックして月を選択します。
3. 日付の選択: 日付をクリックして選択します。
 -  録画なし
 -  録画データあり
 -  現在の日付
 -  選択されている日付
4. 時刻の選択: 上/下の矢印をクリックして時/分/秒を選択します。
5. **[再生時間]**: 再生するように選択されている日付/時刻
6. **[再生]**: クリックすると選択されているビデオ録画を再生します。
7. **[キャンセル]**: クリックすると[再生画面]に戻ります。

1-4-1 項 [再生]

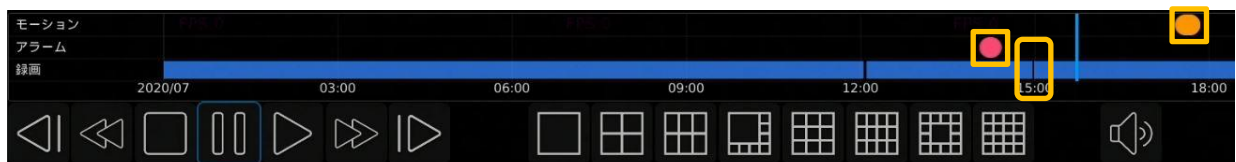
希望する録画ビデオまたはアラームビデオの再生を開始するには、カレンダーで日付を選択し時刻の選択欄で時刻を選択します。次のような[再生]画面が開きます。




モーション検知の録画(オレンジ●)、アラーム検知の録画(ピンク●)、通常の録画が時間軸(タイムライン)上に表示されます。

時間軸場をマウスでクリックすることで再生時刻を移動できます。

マウス・ホイールの操作で、時間軸の範囲を大きくしたり、小さくしたりできます。



備考: 記録画像があるかどうかは、分単位で判断されます。記録停止が1分間以下の場合、のような隙間が表示されない場合があります。

時刻変更などにより同一時刻の映像が重複した場合、1分単位で同一時刻が繰り返し再生されます。

イベント発生が多い場合には、概要表示(下図)と詳細表示の切り替えが可能になります。

概要表示ではイベントがバーで表示されます。

[イベントの詳細]をクリックするとP13の様に個別のイベントが“●”で表示されます。

注: イベント発生が多い場合、詳細表示では再生操作のレスポンスが低下します。

操作性を優先する場合、概要表示での操作をお勧めします。




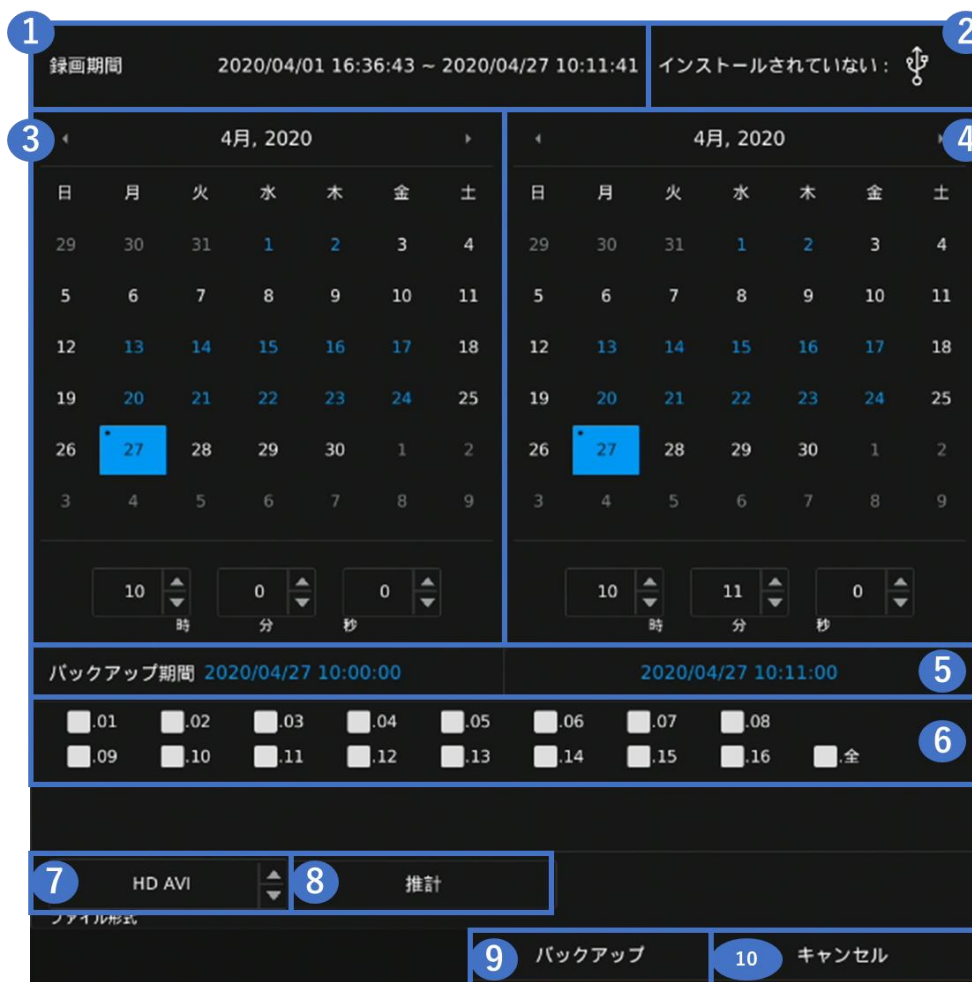
[再生]画面下部のコントロールの詳細を、次の表に示します。

アイコン	説明
	低速巻戻し: 繰り返しクリックすることで、この動作の速度を調整できます(最小 1/64)。
	巻戻し: 繰り返しクリックすることで、この動作の速度を調整できます(最大 64x)。
	停止
	一時停止
	再生
	高速再生: 繰り返しクリックすることで、この動作の速度を調整できます(最大 64x)。
	低速再生: 繰り返しクリックすることで、この動作の速度を調整できます(最小 1/64)。
	必要に応じ画面を分割する数を選択できます。
	音声オン/オフ
	クリックすると[バックアップ]ページが開きます。
	カレンダー: クリックすると[再生]ページが開きます。
	戻る: クリックすると前のページに戻ります。

注: 高速再生・巻き戻しの速度は録画のフレームレート・解像度・カメラ数により低下することがあります。

1-4-2 項 [バックアップ]

録画済みファイルをバックアップする必要がある場合は、バックアップアイコン  をクリックすると、次の図のような[バックアップ]ページが開きますので、必要に応じバックアップ範囲、チャンネル番号、ファイルの形式を選択します。



1. **[録画期間]**: データが録画されている期間を表示します。
2. **USB の状態**: USB フラッシュメモリの状態を検出。アイコンをクリックすると USB デバイスを再検出します。
3. **期間の開始日時の選択**: バックアップする期間の開始日時を選択します。
4. **期間の終了日時の選択**: バックアップする期間の終了日時を選択します。
5. **[バックアップ期間]**: 選択されているバックアップ期間を表示します。
6. **チャンネル番号**: バックアップするチャンネル番号を選択します。
7. **[ファイル形式]**: バックアップするファイルの形式を選択します。

「SD AVI」/「HD AVI」/「Multi-view HD」/「Multi-view SD」

「AVI」: AVI 形式です。

「Multi-view」: 専用再生ソフトで再生可能な形式です。

Multi-view のバックアップでは、バックアップデータと同時に再生ソフトのインストーラが保存されます。

8. **[推計]**: クリックすると選択されている期間の推定ファイルサイズを表示します。
9. **[バックアップ]**: クリックするとバックアップを開始します。
10. **[キャンセル]**: クリックすると前のページに戻ります。

Multi-view バックアップファイルの再生:

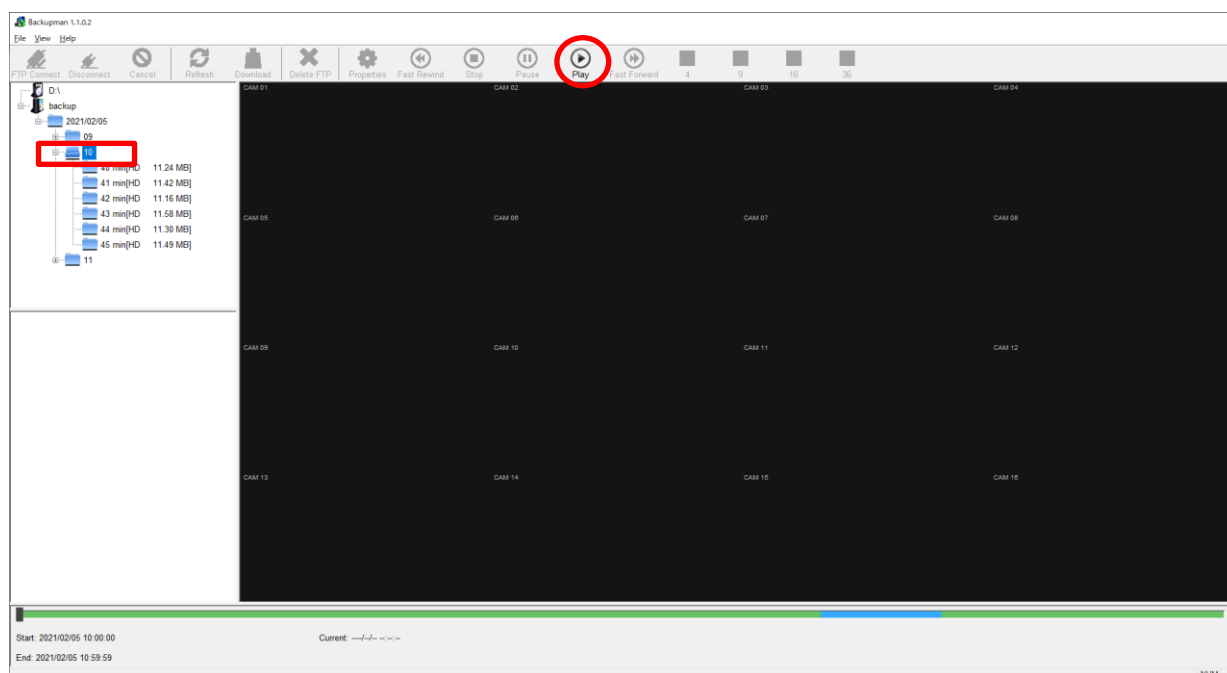
専用再生ソフト(Backupman)をインストールします。

1. Backupman を実行して、File → Open Folder... からバックアップデータの保存されたフォルダーを選択します。(USB メモリの ¥backup フォルダーに保存されます。)

注: Multi-view HD で保存した場合は、File → Open Folder with HD Files を選択してからバックアップデータのフォルダーを選択してください。



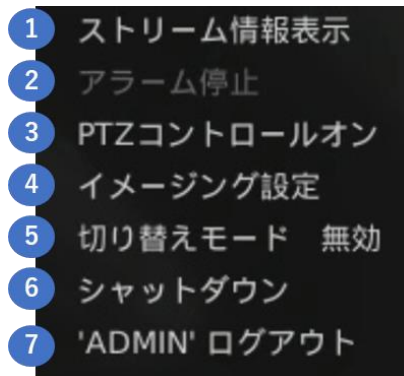
2. フォルダーの下に保存された日付が表示され、更に時刻が表示されますので、再生する時刻を選択します。
3. 再生ボタンにより再生操作が可能になります。



注: バックアップデータ(カメラ数、フレームレート、解像度など)および再生の環境によって早送り・巻き戻しの速度が表示と一致しない場合があります。

1-5 項 コンテキストメニュー

ライブビュー画面上でマウスを右クリックすると、次のような画面が表示されます。



1. **[ストリーム情報表示]**: クリックするとライブビューのストリーム情報表示のオン/オフが切り替わります。
2. **[アラーム停止]**: クリックすると、チャンネル表示ポップアップビューがオフになり、一時的に前のビューに戻ります。
3. **[PTZコントロールオン]**: クリックすると PTZ 操作のオン/オフが切り替わります。単一画面にするとライブビューページに PTZ(パン・チルト・ズーム)操作ページが表示されます。
単一画面でのみ有効です。
4. **[イメージング設定]**: クリックすると、ライブビューページで画像処理設定ページがオンになります。
単一画面でのみ有効です。
5. **[切り替えモード 無効/有効]**: クリックすると、録画モードの切り替えアイコンの表示/非表示が切り替わります。
6. **[シャットダウン]**: クリックするとシャットダウンダイアログが表示され、“OK”を押すと、数秒後システムがシャットダウンになり、安全に機器の電源スイッチを切ることができます。
備考: LHR の電源を切る場合は、必ず**[シャットダウン]**実行後本体背面の電源スイッチを Off してください。
7. **[“アカウント”ログイン/ログアウト]**: クリックすると、手動操作でログイン/ログアウトできます。

1-5-1 項 [ストリーム情報表示]

[ストリーム情報表示]をオンにすると、ビデオ解像度とフレームレートが画面に表示されます。

H.265: エンコーダー設定が H.265 の場合表示

FPS: フレームレート

GOP: GOP 長

TP: スループット (kbps)



備考: 表示される情報はカメラの設定により異なります。


1-5-2 項 [アラーム停止]

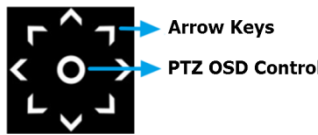
アラームポップアップまたはモーションポップアップを有効にしておくと、イベントが発生したとき設定したビューが表示されます。[アラーム停止]をクリックするとポップアップを終了して、5 秒間ポップアップを無効にします。また、ブザー音を設定している場合[アラーム停止]をクリックするとブザー音を停止します([モーション][アラーム][ビデオロス][FAN エラー]の場合)。**[HDD トラフィックエラー]**:のブザー音は約 60 秒後自動で停止します。

1-5-3 項 [PTZ コントロール オン/オフ]

PTZ カメラを操作するには、単一画面で特定のチャンネルを表示し、PTZ 操作を有効にします。

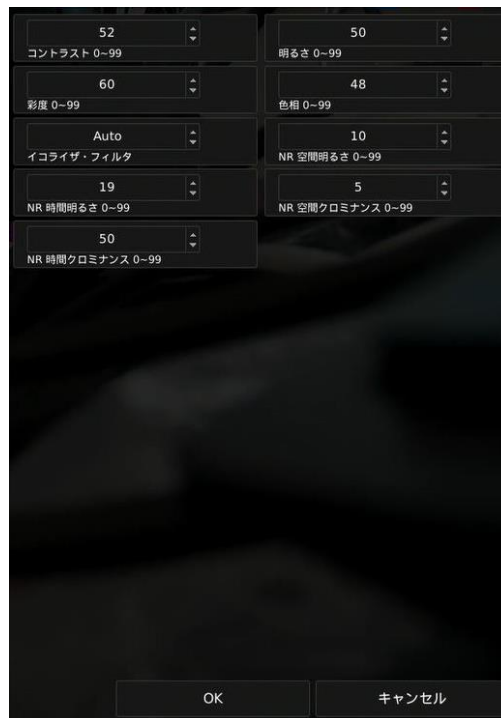
全画面表示のときに下記 PTZ 操作パネルが表示出来ます。



1. [パネルタイプ]: PTZ/魚眼モードの切り替え
2. [AUTOPAN]: オートパンの開始、 オートパンの終了
3. [ZOOM]: ズームイン、 ズームアウト
4. [FOCUS]: 近距離、 遠距離、 オートフォーカス
5. [IRIS]: 絞りを開く、 絞りを閉じる、 自動絞り
6. [FLIP]: 180°の瞬時反転
7. プリセット位置の設定:
 - [PRESET]: PRESET 1~255 のプリセット位置を設定可能
 - [DWELL]: DWELL オートパン中のプリセット位置での停滞時間
 - [SPEED]: SPEED オートパン中のプリセット位置間の移動速度
 - プリセットを保存、 プリセットを削除
8. ジョイスティック:いずれかの矢印キーをクリックすると PTZ カメラを移動でき、 アイコンをクリックすると PTZ OSD コントロールが表示されます。
9. 設定ボタン: カメラが THP-2201VW の場合のカメラメニュー表示ボタンです。

1-5-4 項 [イメージング設定]

このページでは、[コントラスト]、[明るさ]、[彩度]、[色相]、[イコライザ・フィルタ]など、カメラのパラメーターを調整できます上下の矢印キーをクリックし[OK]を押して変更を保存します。



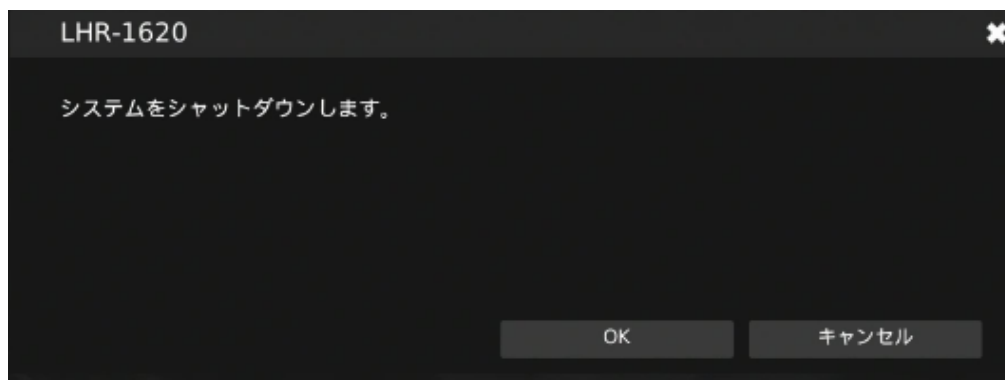
1-5-5 項 [切り替えモード 無効/有効]

無効を選択すると、画面左上隅に表示される LHR コントロールの録画モードの切り替えアイコンが表示されなくなります。

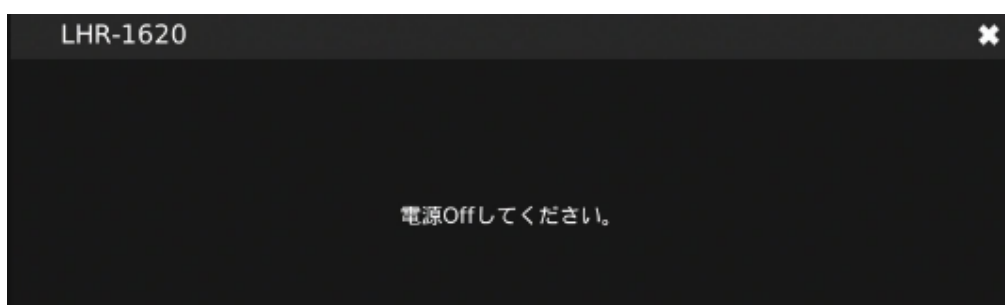


1-5-6 項 [シャットダウン]

安全に機器の電源を切ることができます。



“OK”を押して下記ダイアログが表示されるまで 10 秒程度、待ちます。



備考: LHR の電源を切る場合は、必ず[シャットダウン]を実行後本体背面の電源スイッチを Off してください。

1-5-7 項 [アカウント ログイン/ログアウト]

システムにログイン、またはシステムからログアウトするには、[アカウント ログイン/ログアウト]をクリックします。

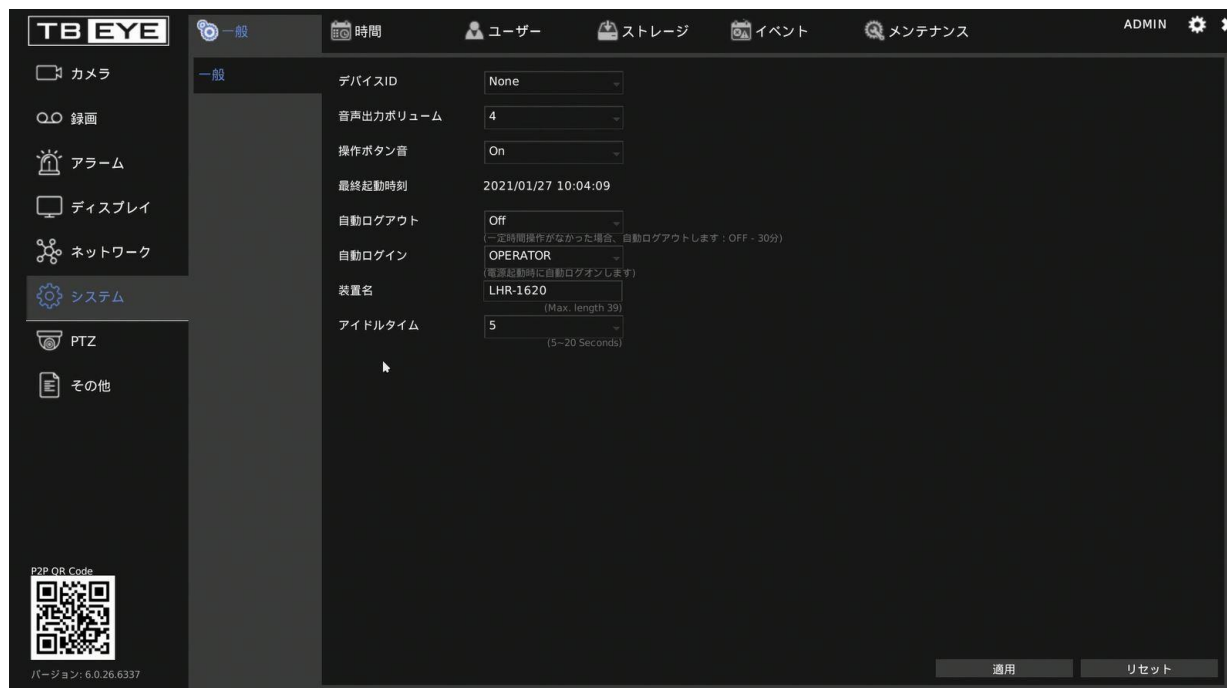
ログイン時は下記のフィールドに入力します。



第 2 章 システム設定

 をクリックして[LHR 設定]を開き、左のペインの  システム]をクリックすると、LHR のシステム設定を調整できます。各タブの詳細を以下に示します。

2-1 項 [一般]



- **[デバイス ID]**: LHR にデバイス ID を割り当てます。
- **[音声出力ボリューム]**: LHR の音量を調整します。
- **[操作ボタン音]**: リモコンのボタンを押したときの音のオン/オフを切り替えます。
- **[最終起動時刻]**: システムが最後に再起動された時刻を表示します。
- **[自動ログアウト]**: 何も操作せずに 30 分経過すると自動的にログアウトします。
- **[自動ログイン]**: システムの電源を入れたときに自動的にログインするためのユーザーアカウントを指定します。
- **[アイドルタイム]**: 指定時間マウス操作を行わないと操作ボタンが消えます。

2-2 項 [時間]

The screenshot shows a web interface for configuring system time. The page title is '時間' (Time). The settings are as follows:

項目	設定値
日時	2021 / 03 / 15 10 : 02 : 40 (Current time)
日付形式	YYYY/MM/DD
タイムゾーン	GMT:+9 Asia/Tokyo
時刻同期モード	Off
NTPサーバー	jp.pool.ntp.org (Max. length 63)
時刻同期間隔	1 (Hour(s))
NTPステータス	

Buttons at the bottom: 適用 (Apply), リセット (Reset).

- **[日時]**: LHR の日付/時刻を設定します。
- **[日付形式]**: 日付の表示形式を変更します。
- **[タイムゾーン]**: LHR が設置されている場所のタイムゾーンを変更します。
- **[時刻同期モード]**: 時刻の同期方法を選択します。
- **[NTP サーバー]**: 使用する NTP サーバーを入力します。
- **[時刻同期間隔]**: 時刻を同期する頻度を選択します。
- **[NTP ステータス]**: 選択されている NTP サーバーへの接続状態がここに表示されます。

2-3 項 [ユーザー]

ユーザー名	設定項目	値/状態
ADMIN	ユーザー名	ADMIN (Max. length 32)
OPERATOR	古いパスワード	(Max. length 32) [パスワード表示]
GUEST	新しいパスワード	(Max. length 32) [パスワード表示]
USER01	パスワード確認	(Max. length 32) [パスワード表示]
USER02	ユーザー許可	Admin 次回ログイン時に有効
USER03	設定	<input checked="" type="checkbox"/>
USER04	再生	<input checked="" type="checkbox"/>
USER05	イベント	<input checked="" type="checkbox"/>
USER06	PTZ	<input checked="" type="checkbox"/>
USER07	バックアップ	<input checked="" type="checkbox"/>
USER08	シャットダウン	<input checked="" type="checkbox"/>
USER09	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>
USER10	遠隔ライブ閲覧	<input checked="" type="checkbox"/>
USER11	遠隔録画再生	<input checked="" type="checkbox"/>
USER12	初期値に戻す	初期値
	適用	適用

LHR は、最大で 15 件までの個別のユーザー設定をサポートし(デフォルトのユーザーである管理者、オペレーター、ゲストなど)、各ユーザーに異なるアクセス権限を割り当てることができます。

- **[ユーザー名]**:ユーザー名を入力します(User01~12 の場合のみ)。
- **[古いパスワード]**、**[新しいパスワード]**、**[パスワード確認]**:パスワードを変更する場合は、前のパスワードを入力し、新しいパスワードを入力し、確認用にもう一度パスワードを入力します。**[パスワード表示]**を押すとパスワードが表示されます。
- **[ユーザー許可]**:ユーザーのアクセス権限を、管理者、オペレーター、またはゲストのいずれかに設定します。
- **[設定]**:設定メニューが利用可能な権限です
- **[再生]**:再生操作が利用可能な権限です
- **[イベント]**:イベントログを利用可能な権限です
- **[PTZ]**:PTZ 操作が利用可能な権限です
- **[バックアップ]**:バックアップ操作が利用可能な権限です
- **[シャットダウン]**:シャットダウン操作が利用可能な権限です
- **[アラーム]**:アラームイベント検索が利用可能な権限です

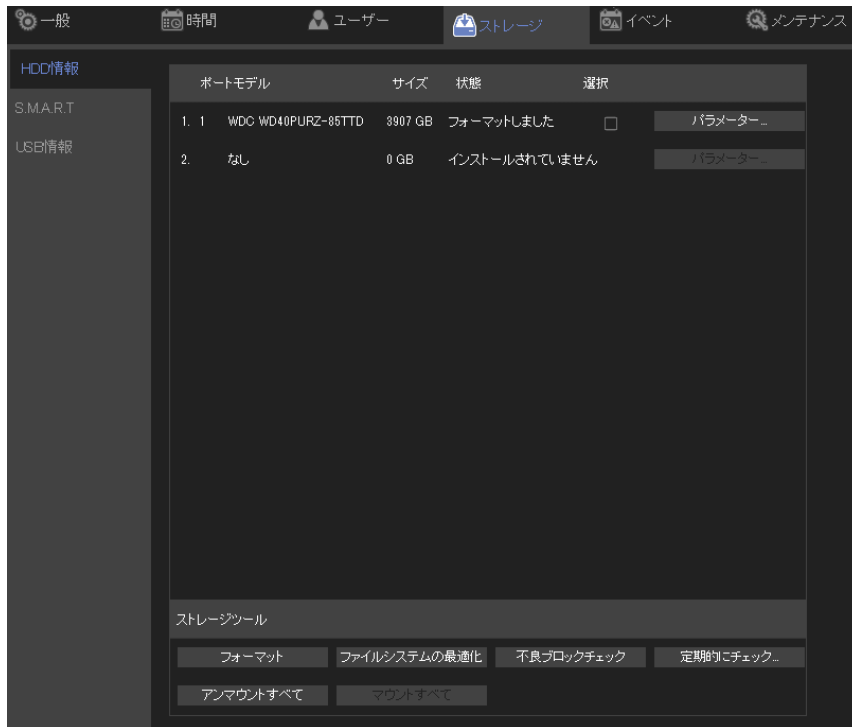
- [遠隔ライブ閲覧]:遠隔からのライブ閲覧が利用可能な権限です
- [遠隔録画再生]:遠隔からの録画再生が利用可能な権限です
- [初期値に戻す]:設定を初期値に戻します。

備考:権限が無い操作を試みた場合、権限のあるユーザーでの再ログインを求められます。



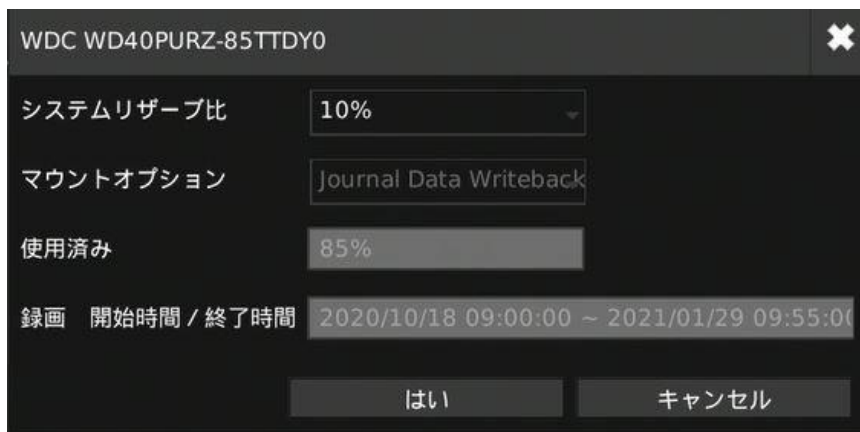
2-4 項 [ストレージ]

2-4-1 項 [HDD 情報]



[HDD 情報]には、HDD のフォーマット、ファイルシステムのデフラグ、HDD の不良ブロックの検査、HDD の定期検査の機能があります。必要に応じた HDD を選択し、[フォーマット]、[ファイルシステムの最適化]、[不良ブロックチェック]、[定期的にチェック]をクリックします。

[パラメーター]: 各デバイスのパラメーターをクリックすると次のような画面が開きます。



[システムリザーブ比]では、HDD 容量のうち録画ファイルで占有されない部分の比率を設定できます。

注: システムリザーブ比は初期値の"10%"固定で使用してください。

[フォーマット]:

新規のハードディスクを利用する場合、フォーマットを行ってください。

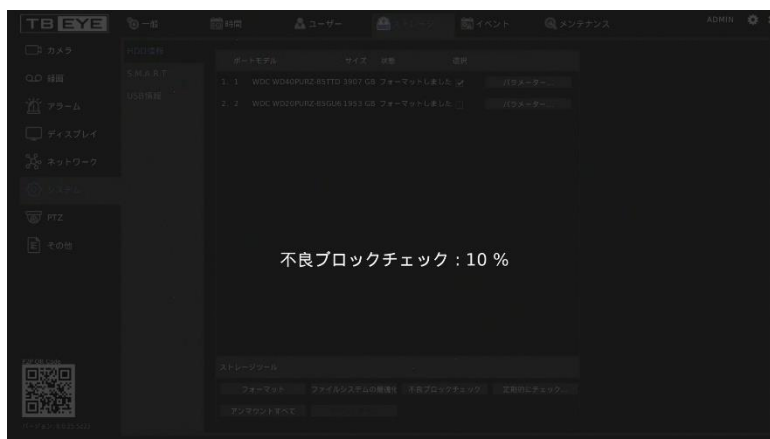
ハードディスク上のデータは全て消去されます。

[ファイルシステムの最適化]:

最適化実行中は録画が停止します。

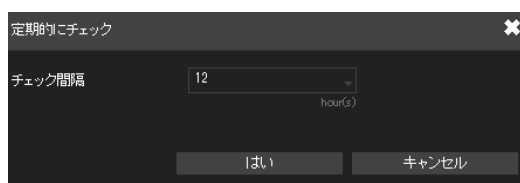
実行の際にはこの点に留意し実行可否を決定してください。

[不良ブロックチェック]:



備考: [不良ブロックチェック]を実行中は、スケジュール記録含めほぼ全てのオペレーションが停止します。途中の実行停止はできません。HDD 容量によっては 10 時間以上の間、LHR の運用がストップします。実行の際には以上の点に留意し、[不良ブロックチェック]の実行可否を決定してください。

[定期的なチェック]:



システムチェックの間隔を設定できます。

2-4-2 項 [S.M.A.R.T.]



ユーザーは HDD の分析(短時間または長時間)を行うことができ、[S.M.A.R.T.]にハードディスクドライブの S.M.A.R.T.ステータスが表示されます。[ショート]または[拡張]の分析を選択して[解析]をクリックすると、処理が開始されます。[HDD S.M.A.R.T 情報]の下に、HDD の状態、情報、属性、イベント履歴が表示されます。

2-4-3 項 [USB 情報]



USB デバイス(フラッシュメモリ)を LHR に接続し、フォーマットしたいデバイスをこのページでチェックし、[フォーマット]をクリックします。

2-5 項 [イベント]

2-5-1 項 [システム]

システム

イベント期間 2021/03/05 17:01 ~ 2021/03/08 09:16

検索時間 2021 年 03 月 05 日 00 時 00 分 ~ 2021 年 03 月 08 日 23 時 59 分

X.01 X.02 X.03 X.04 X.05 X.06 X.07 X.08 X.09 X.10 X.11 X.12 X.13 X.14 X.15 X.16 X.レコーダー X.全

検索イベント 全イベント

2021/03/08 09:16:20	プライマリストリーム入力 CH.1
2021/03/08 09:16:19	セカンダリストリーム入力 CH.1
2021/03/08 09:15:31	起動
2021/03/08 09:13:20	セカンダリストリーム入力 CH.1
2021/03/08 09:13:20	プライマリストリーム入力 CH.1
2021/03/05 17:03:02	セカンダリストリーム入力 CH.1
2021/03/05 17:03:02	プライマリストリーム入力 CH.1
2021/03/05 17:02:10	起動
2021/03/05 17:01:41	セカンダリストリーム入力 CH.1
2021/03/05 17:01:41	プライマリストリーム入力 CH.1

1 1-10 / 10 (#10) ダウンロード 検索

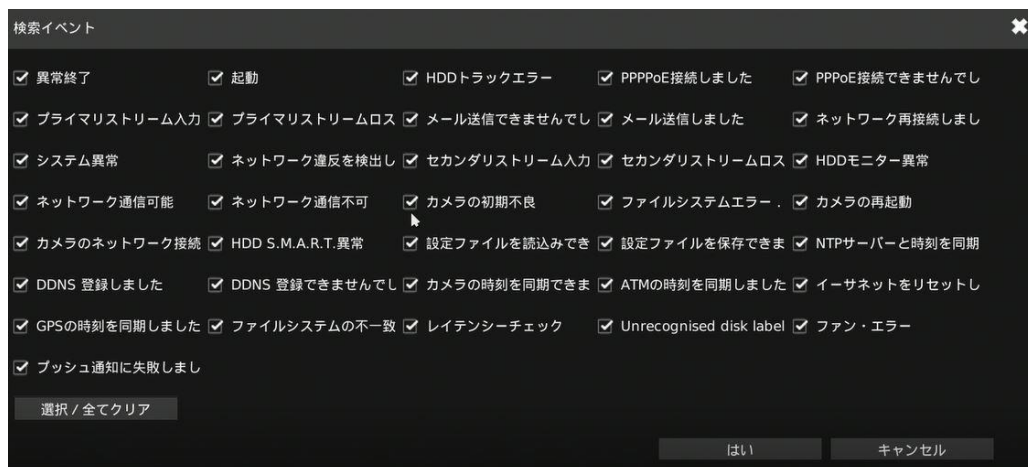
システムイベントの表示・検索が可能です。このページの検索フィールドを使用して、さまざまな時刻やさまざまな内容の特定のイベントレポートを検索できます。イベントレポートを USB デバイスにエクスポートするには[ダウンロード]を押します。

カメラ選択:

X.01 X.02 X.03 X.04 X.05 X.06 X.07 X.08 X.09 X.10 X.11 X.12 X.13 X.14 X.15 X.16 X.レコーダー X.全

カメラチャンネルイベント、およびチャンネル非依存イベント[レコーダー]を選択可能です。

検索イベント画面:



検索するイベントを選択可能です。

[HDDトラックエラー]: HDD エラー状態検知

[プライマリストリーム入力]/[プライマリストリームロス]: カメラの入力/ロス検知

[セカンダリストリーム入力]/[セカンダリストリームロス]: カメラの入力/ロス検知

[HDD S.M.A.R.T.異常]: HDD S.M.A.R.T 異常検知

[ファン・エラー]: ファンエラー検知

その他イベントも選択可能です。

備考: モデル機種により、イベント項目が異なります。

2-5-2 項 [操作中]

システム

操作中

アラーム

イベント期間 2021/03/05 17:03 ~ 2021/03/08 09:17

検索時間 2021 年 03 月 05 日 00 時間 00 分 ~ 2021 年 03 月 08 日 23 時間 59 分

IP ユーザー名

検索イベント 全イベント

2021/03/08 09:17:37	ローカルホスト	ADMIN	ログイン
2021/03/08 09:14:58	ローカルホスト	ADMIN	ファームウェアアップデート
2021/03/05 17:03:37	ローカルホスト	ADMIN	ログイン

1 1-3 / 3 (#3) ダウンロード 検索

このページでは、さまざまなユーザーの操作状態を確認できます。イベントレポートを USB デバイスにエクスポートするには[ダウンロード]を押します。

検索イベント画面:

検索イベント

ネットワーク システム ファームアップデート カメラ アラーム

PTZ ストリームタイプ 録画 再生 バックアップ

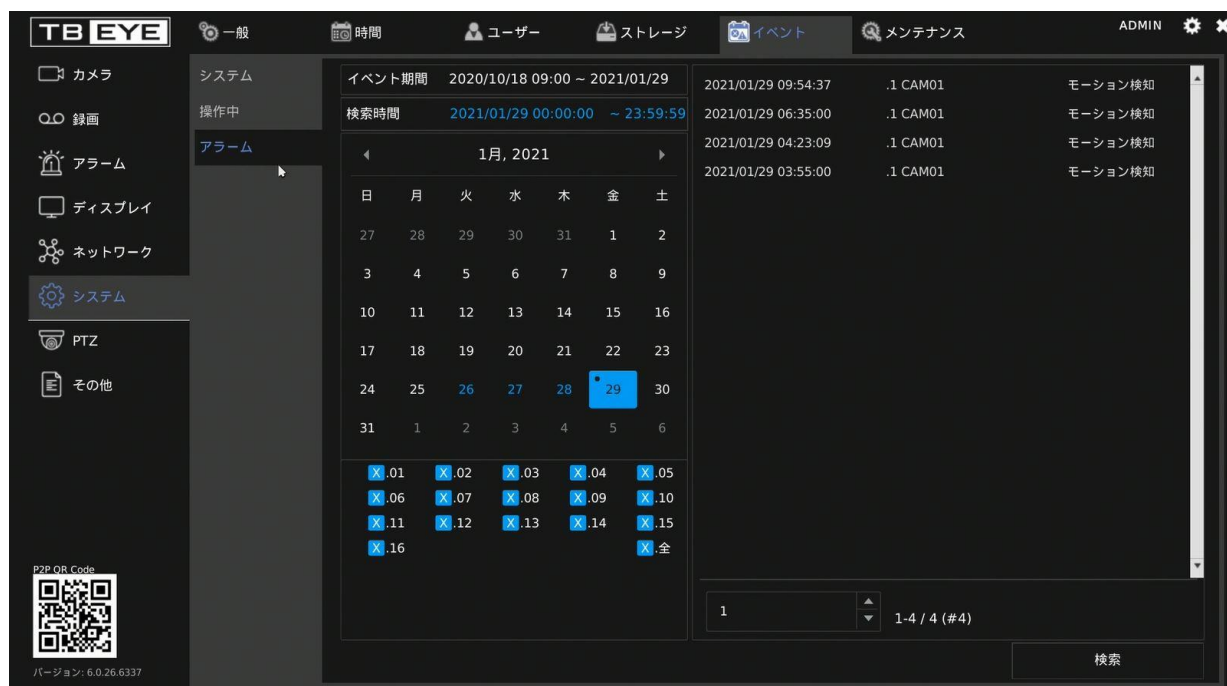
選択 / 全てクリア

はい キャンセル

検索するイベントを選択可能です。

ネットワーク、システム、ファームアップデート、カメラ、アラーム、PTZ、ストリームタイプ、録画、再生、バックアップの10項目から選択可能です。

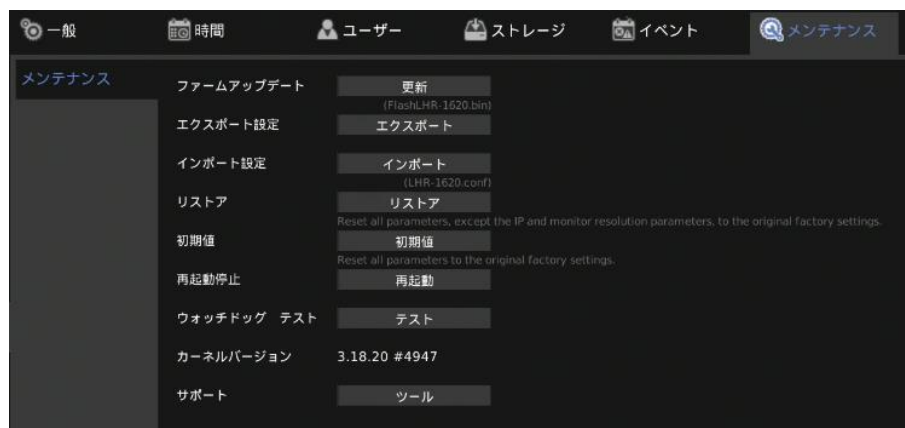
2-5-3 項 [アラーム]



このページでは、モーション検出、外部アラーム、手動録画のイベントを検索できます。

検索には、日付とチャンネルを指定して**[検索]**ボタンを押します。

2-6 項 [メンテナンス]




- **[ファームウェアアップデート]**: ファームウェアファイルを保存した USB フラッシュメモリを接続して **[更新]**をクリックすると、ファームウェアのアップデート処理が進められます。
- **[エクスポート設定]**: **[エクスポート]**をクリックすると、システム設定を USB フラッシュメモリにコピーします。
- **[インポート設定]**: **[インポート]**をクリックすると、差し込んだ USB フラッシュメモリに保存されているシステム設定が適用されます。
- **[リストア]**: **[リストア]**をクリックすると、IP アドレス、モニター設定以外のシステム設定が工場出荷時の

設定に戻ります。

- **[初期値]**: **[初期値]**をクリックすると、システムを工場出荷時の設定に戻ります。
- **[再起動停止]**: **[再起動]**をクリックするとシステムをソフトリセットします。
- **[ウォッチドッグ テスト]**: **[テスト]**をクリックするとシステムのウォッチドッグ機能をテストします。この操作を行うと LHR が再起動されます。
- **[カーネルバージョン]**: システムのカーネルのバージョン。
- **[サポート]**: **[ツール]**をクリックすると、[Server Execution Log]ダイアログが開きます。

2-6-1 項 [ファームウェアアップデート]

LHR ファームウェアをアップデートするには、次のようにします。

1. USB フラッシュメモリのルートディレクトリにファームウェアフォルダーを作成します。
 ■ > PC > USB 32G (D:) > firmware
 のように、USB フラッシュのルートディレクトリに、“firmware”という名前のフォルダーを作ります。
2. 作成した“firmware”フォルダーに LHR のファームウェアを保存します。
3. フラッシュメモリを LHR 背面パネルの USB ポートに差し込みます。
4. LHR の左上隅のギアの形のアイコン  をクリックし、LHR 設定のメニューを開きます。



5. **[システム]** > **[メンテナンス]**をクリックし、ファームウェアアップデート用の**[更新]**ボタンをクリックし、**[送信]**を押すとファームウェアのアップデートが開始されます

第3章 ネットワークの設定

 をクリックして[LHR 設定]を開き、左側ペインの  ネットワーク をクリックします。

3-1 項 [一般]



The screenshot shows the TBEYE web interface for network configuration. The left sidebar has 'ネットワーク' (Network) selected. The main area is titled '一般' (General) and contains the following fields and options:

- IPアドレスモード: Static (with a 'ポートフォワーディング' button)
- IPアドレス: 192.168.16.114 (with a '重複チェック' button)
- サブネットマスク: 255.255.255.0
- デフォルトゲートウェイ: 192.168.16.1
- プライマリDNS: 192.168.16.1
- セカンダリDNS: 8.8.8.8
- HTTPポート番号: 80 (with an 'Authentication Type' dropdown set to 'Basic')
- HTTPSポート番号: 443 (with a '証明書' dropdown set to '証明書がインストールされていません')
- FTPポート: 12321 (with an 'Off' dropdown)
- RTSPポート: 554 (with an 'RTSP URI' button)
- MACアドレス: 00:0F:FC:11:EC:BB
- PPPoEアカウント: user
- PPPoEパスワード: **** (with a '表示' button)
- PPPoEアドレス: [empty]
- ホットスポットIP: [empty]

At the bottom right, there are '適用' (Apply) and 'リセット' (Reset) buttons. A QR code and version number (バージョン: 6.0.24.4995) are visible in the bottom left.

各フィールドに必要な情報を入力します。

- **[IP アドレスモード]**: LHR の接続のタイプとして、**[Static]**、**[DHCP]**、**[PPPoE]**のいずれかを選択します。
- **[IP アドレス]**: 使用する IP アドレスを入力します。**[適用]**する前に必要に応じ**[重複チェック]**を押すことで利用中の IP アドレスであるかを確認できます。
初期値[192.168.1.200]
- **[サブネットマスク]**: 必要に応じたサブネットマスクを入力します。
初期値[255.255.255.0]
- **[デフォルトゲートウェイ]**: 必要に応じたデフォルトゲートウェイを入力します。
初期値[192.168.1.1]
- **[プライマリ DNS]**: プライマリ DNS サーバーを入力します。
- **[セカンダリ DNS]**: プライマリ DNS サーバーが使用できない場合のセカンダリ DNS サーバーを入力します。
- **[HTTP ポート番号]**: 必要に応じた HTTP ポートを指定します。
初期値[80]
- **[FTP ポート]**: 必要に応じた FTP ポートを指定します。
初期値[12321]

- **[RTSP ポート]**: 必要に応じた RTSP ポートを指定します。
初期値[554]
- **[MAC]**: LHR の MAC アドレスです。
- **[PPPoE アカウント]**: PPPoE 接続を選択する場合は、ここにアカウント名を入力します。
- **[PPPoE パスワード]**: 必要に応じた PPPoE 接続用のパスワードを入力します。
- **[PPPoE アドレス]**: PPPoE アドレスがここに表示されます。

3-2 項 [詳細]

3-2-1 項 [P2P]



正しく有効化されると QR コードが画面に表示され、専用のアプリで QR コードをスキャンすると LHR にアクセスできます。

- **[有効]: [On]**を選択するとサービスが有効になります。
- **[P2P アカウント]:**アカウント ID。
- **[P2P ライセンス]:**ライセンスコード。

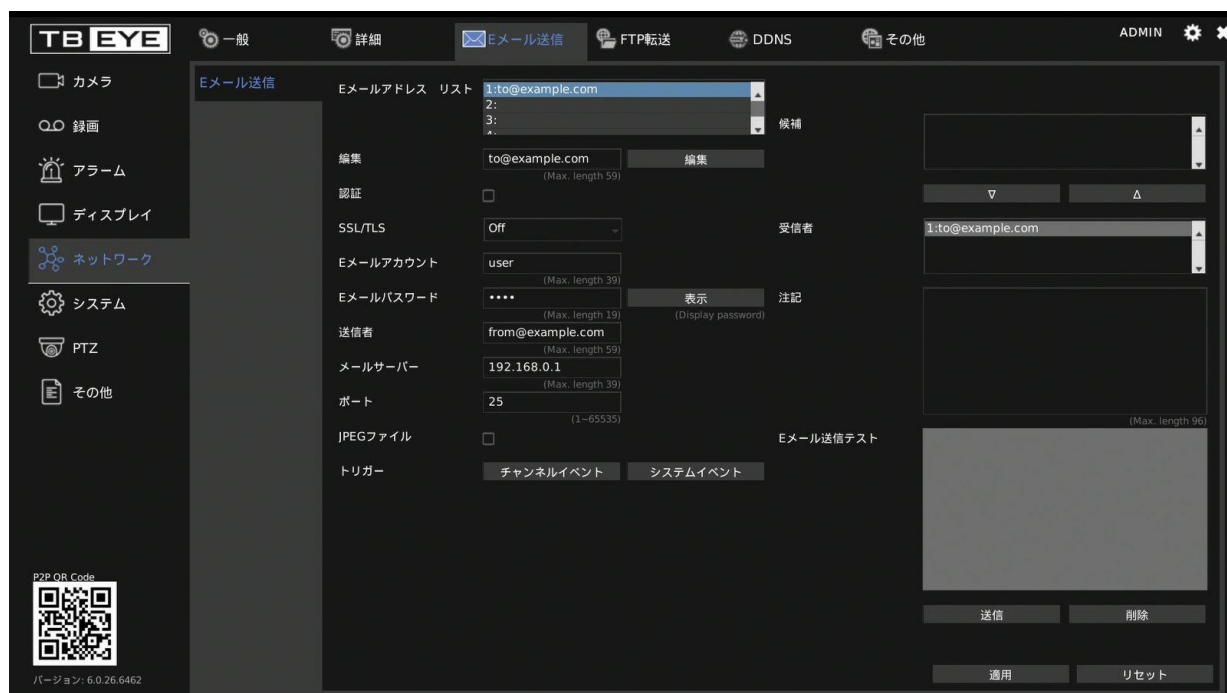
P2P アカウント、P2P ライセンスは、事前に入力済みです。

備考:

- P2P サービスの利用には接続先レコーダーとは別のインターネット上の機器との通信が必要です。
- ご使用に際しては、お客様の環境での動作確認をお願いします。
- ご使用されるネットワークの環境・条件によって発生する諸問題について、当社ではご対応致しかねます。

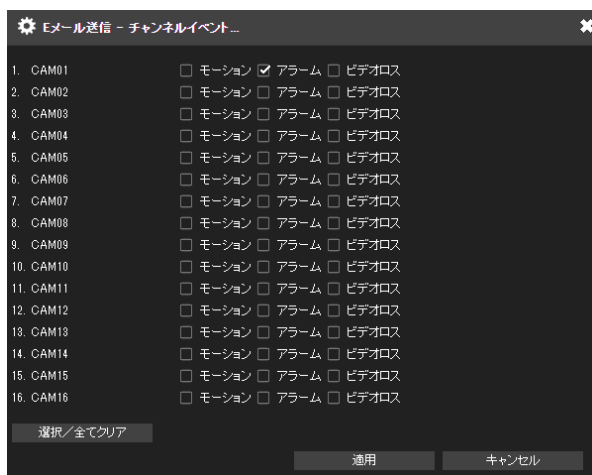
3-3 項 [E メール送信]

アラームが発生したときに、LHR は、ユーザーが指定した受信者に自動的に電子メールを送信できます。設定オプションについて以下に示します。



- **[E メールアドレスリスト]:** このリストには、保存されているすべての電子メールアドレスが表示されます。
- **[編集]:** リストを選択後、連絡先として保存したい電子メールアドレスを入力して**[編集]**をクリックします。
- **[認証]:** 電子メールアカウントへのログイン認証が必要な場合は、ここをチェックします。
- **[SSL/TLS]:** 電子メールサーバーで暗号化が必要な場合は、ここをチェックします。
- **[E メールアカウント]:** 電子メールのアカウント名を入力します。
- **[E メールパスワード]:** 電子メールのパスワードを入力します。
- **[送信者]:** 電子メールの送信者アドレスを入力します。
- **[メールサーバー]:** 電子メールサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。
- **[ポート]:** 電子メールサーバーのポートを入力します。
- **[JPEG ファイル]:** アラームが発生したときに JPEG 画像も添付する場合は、ここをチェックします。
- **[候補]:** 連絡先を受信者として追加するには、必要に応じ電子メールアドレスを選択して上下の矢印キーを押します。
- **[受信者]:** 受信者のリスト。
- **[注記]:** 電子メール通知の内容。(“subject:”に表示されます)
- **[E メール送信テスト]:** クリックすると、設定を確認するためのテスト用電子メールを送信します。
- **[トリガー]:** **[チャンネルイベント]**と**[システムイベント]**で通知の電子メールを送信するタイミングを指定します。

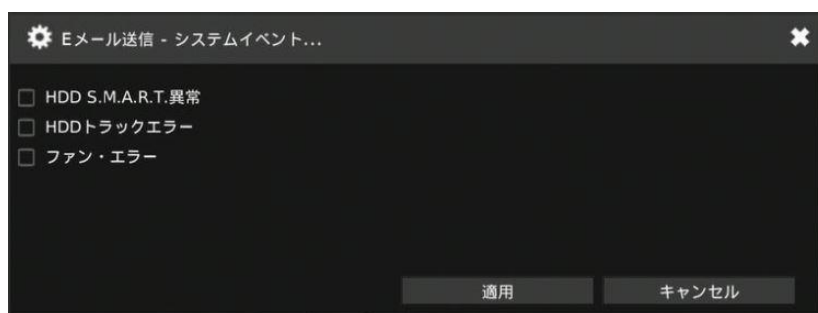
[チャンネルイベント]: クリックすると次のようなダイアログが開きます。



備考: チャンネル数はモデルにより異なります。

- [モーション]: 動きが検出されたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
- [アラーム]: 外部アラームが検出されたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
- [ビデオロス]: カメラとの接続が切れたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
ビデオロスは約 3 秒間の入力断で検出します。

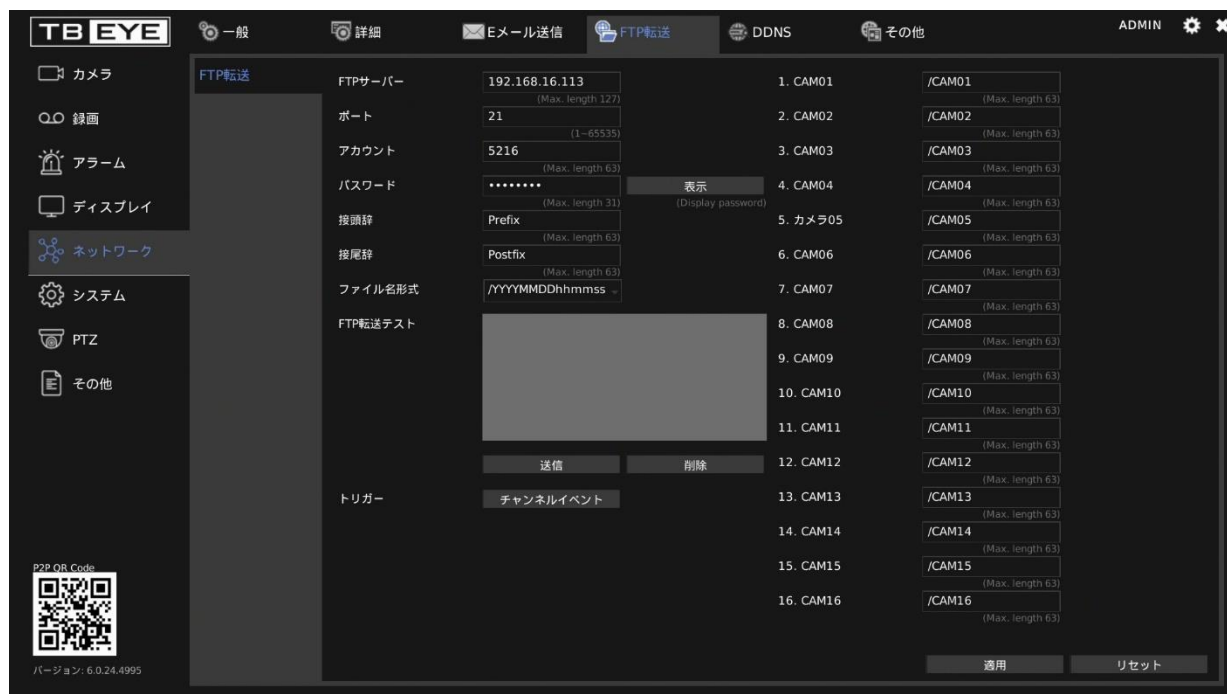
[システムイベント]: クリックすると次のようなダイアログが開きます。



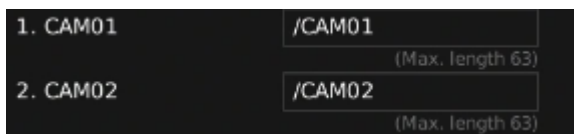
- [HDD S.M.A.R.T.異常]: S.M.A.R.T エラーが検出されたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
- [HDDトラックエラー]: HDD エラーが検出されたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
- [ファン・エラー]: ファンエラーが検出されたときに電子メールを送信するには、ここをチェックします。
ファンエラーは LHR-1620 のみの機能です。

3-4 項 [FTP 転送]

アラームが発生したとき、LHR は、ユーザーが指定したFTPサーバーに自動的にスナップショットを送信できます。設定オプションについて以下に示します。



- **[FTP サーバー]**:FTP サーバーの IP アドレスを入力します。
- **[ポート]**:FTP サーバーのポートを入力します。
- **[アカウント]**:FTP サーバーのアカウント名を入力します。
- **[パスワード]**:FTP サーバーのパスワードを入力します。
- **[接頭辞]／[接尾辞]**:スナップショットファイルの接頭辞と接尾辞を指定します。
- **[ファイル名形式]**:ユーザーの必要に応じてファイル名の形式を変更できます。
- **[トリガー]**:**[チャンネルイベント]**の詳細は前述の説明と同様です。



アラームが発生したときに FTP に通知を送信するカメラの画像が保存されているフォルダー名を指定します。

3-5 項 [DDNS]

DDNS を使用することで、ユーザーは、実際の IP にかかわらず DDNS URL により、インターネットに接続されている LHR にアクセスできます。設定オプションについて以下に示します。

The screenshot shows a configuration page for DDNS. At the top, there are navigation tabs: 一般 (General), 詳細 (Details), Eメール送信 (Email Send), FTP転送 (FTP Transfer), DDNS, and その他 (Others). The DDNS section is active. The settings are as follows:

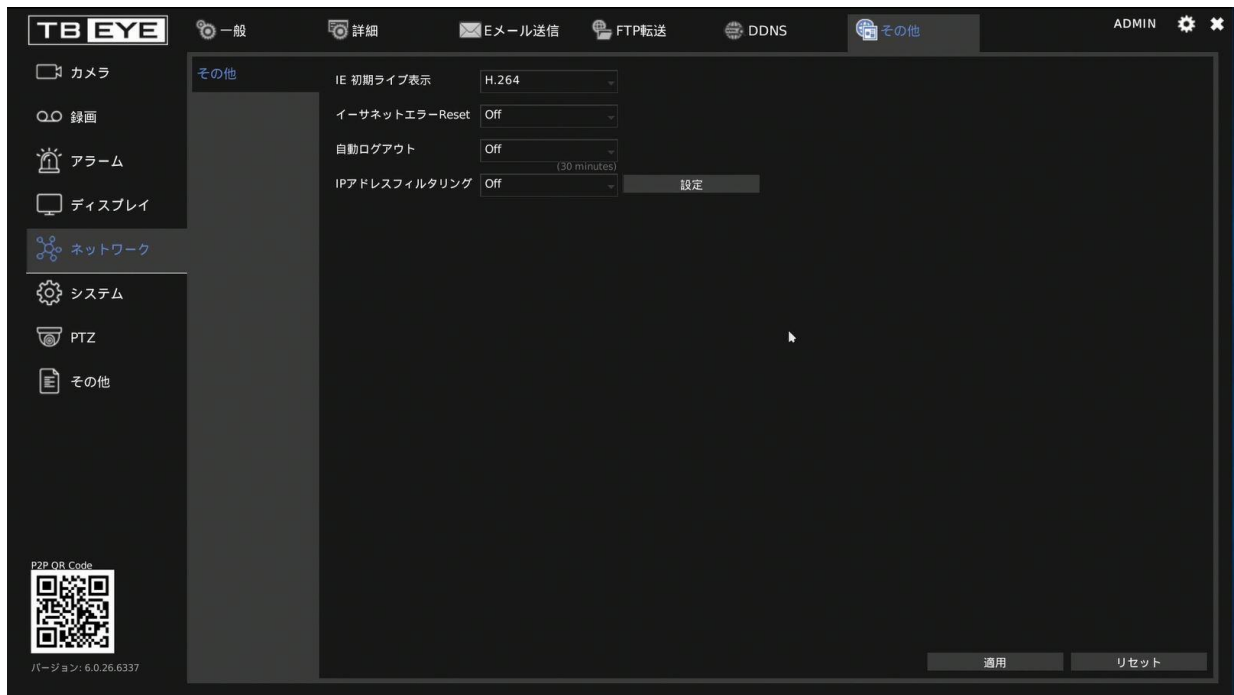
- DDNSサーバー: ipddns.cc
- ホスト名: test.dnsalias.com (with a link to http://test.dnsalias.com.ipddns.cc/)
- アカウント: test
- パスワード: [masked]
- WAN側IPアドレス: [empty]
- チェック間隔: 1
- ステータス: Status: Wrong hostname format: A-Z, a-z, 0-9, - or _ is accepted

- **[DDNS サーバー]:** 使用する DDNS サーバーを入力します。
通常、ipddns.cc を利用してください。
- **[ホスト名]:** DDNS サーバーに登録するホスト名を入力します。
LHR にアクセスするアドレスは、“ホスト名.ipddns.cc”となります。
- **[アカウント]:** DDNS サーバーにログインするためのアカウント名を入力します。
- **[パスワード]:** DDNS サーバーにログインするためのパスワードを入力します。
- **[WAN 側 IP アドレス]:** LHR が自動的に正しいアドレスを取得できない場合は WAN IP アドレスを入力します。
- **[チェック間隔]:** システムが DDNS 接続をチェックする時間間隔を選択できます。

備考: DDNS 機能を使用するにはインターネット接続が必要です。


3-6 項 [その他]

DVR 関連する他の設定は その他のタブで変更できます。設定オプションは以下のとおりです。

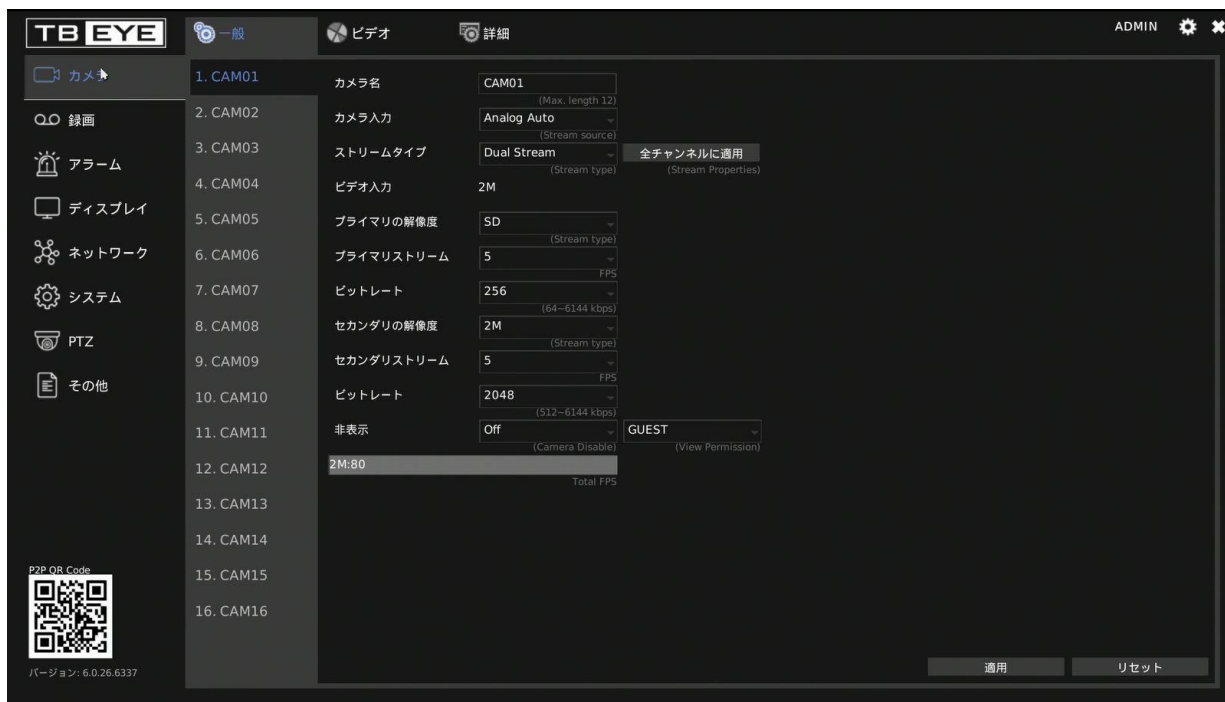


- **[IE 初期ライブ表示]:** Internet Explorer を使用してストリーミングを行う場合のデフォルトのストリーミングタイプ(H.264 または MJPEG)を選択します。
- **[イーサネットエラー-Reset]:** イーサネットエラーが検出されたとき PHY をリセットして、イベントテーブルに記録を残します。
- **[自動ログアウト (30 Minutes)]:** 何も操作せずに 30 分経過すると自動的にログアウトします。
- **[IP アドレスフィルタリング]:** IP フィルタリング機能のオン/オフを切り替えます。**[設定]**を押すと**[IP アドレスフィルタリング]**ダイアログが開きます。

第4章 カメラの設定

 をクリックして[LHR 設定]を開き左側ペインの  **カメラ**を押すと、**[カメラ設定]**ページが開きます。設定オプションについて以下に示します。

4-1 項 [一般]

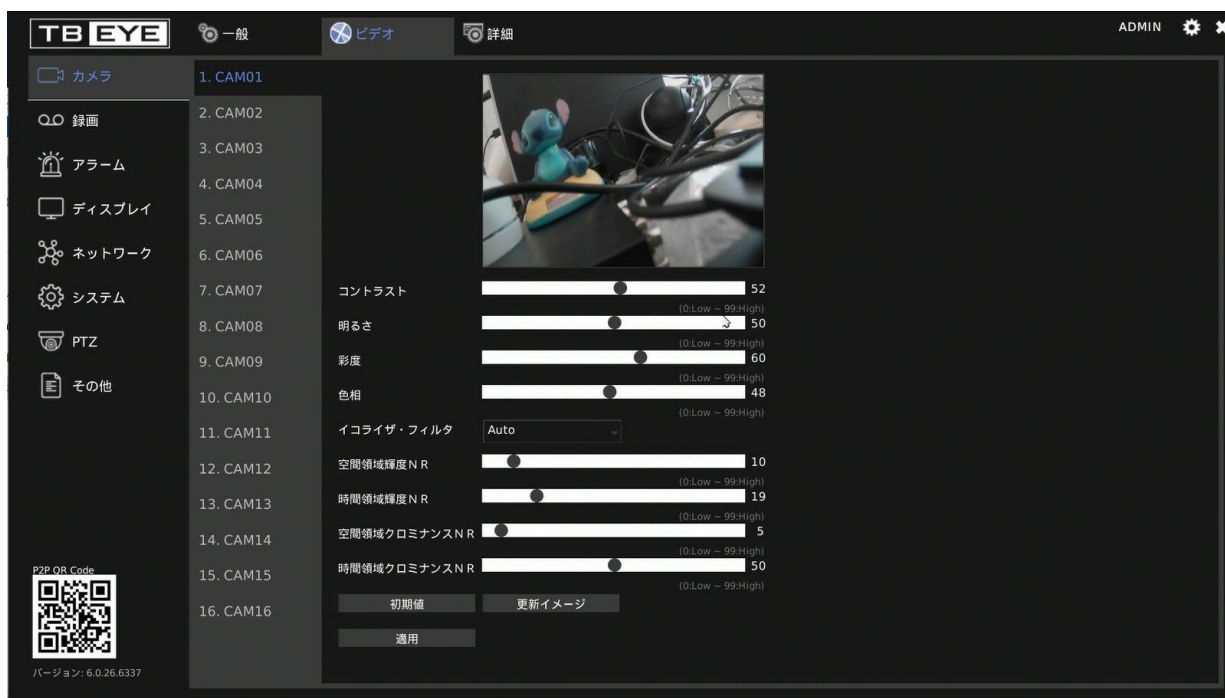


- **[カメラ名]**: ストリーミング画面に表示するカメラ名を入力します。
- **[カメラ入力]**: LHR のチャンネルをカメラに割り当てます。[Off]または[Analog Auto]を選択します。
- **[ストリームタイプ]**: ストリーム配信を、プライマリビデオにするか、またはデュアルビデオ(プライマリとセカンダリ)にするかを選択します。
- **[ビデオ入力]**: 接続したカメラの解像度を自動検出して表示します。
- **[プライマリの解像度]**: 録画および配信する映像の解像度を選択します。デュアルストリームの低解像度側の設定で、**[CIF]**または**[SD]**から選択します。
- **[プライマリストリーム]**: プライマリストリームのフレームレート(FPS)を選択します。
- **[ビットレート]**: プライマリストリームのビットレートを選択します。
LHR-0410F と LHR-0810/LHR-1620 では最大ビットレートが異なります。
- **[セカンダリの解像度]**: 録画および配信する映像の解像度を選択します。デュアルストリームの高解像度側の設定で、カメラが 2M の場合**[2M]**、**[720P]**または**[960H]**から選択します。
- **[セカンダリストリーム]**: セカンダリストリームのフレームレート(FPS)を選択します(**[ストリームタイプ]**で**[Dual Stream]**を選択した場合にのみ使用可能)。
- **[ビットレート]**: セカンダリストリームのビットレートを選択します。
LHR-0410F と LHR-0810/LHR-1620 では最大ビットレートが異なります。
- **[非表示]**: 選択されているカメラのビデオ機能(ライブ画面と再生)を無効にします。

[Off]の場合は映像が有効 **[On]**の場合は映像が無効(非表示)となります。

“ADMIN”、“OPERATOR”、“GUEST”の選択肢は指定の権限以上のユーザーでログイン時にのみ映像が有効となることを示します。


4-2 項 [ビデオ]

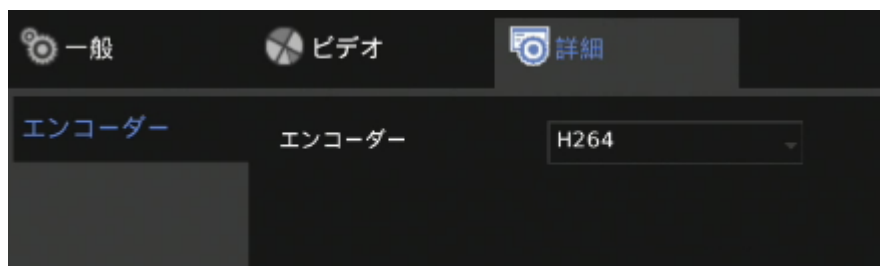


このページでは、[コントラスト]、[明るさ]、[彩度]、[色相]、[イコライザ・フィルタ]など、カメラに関するいくつかのパラメーターを調整できます。

[初期値]をクリックするとビデオの設定を工場出荷時の設定に戻します。[更新]をクリックすると、プレビュー画像を更新します。

4-3 項 [詳細]

ビデオ録画形式として H.264 または H.265 を選択するには、ギアの形のアイコン  をクリックして[LHR 設定]を開き、左側ペインの[カメラ]を押して[カメラ設定]ページを開き、[詳細]を押します。



- [エンコーダー]: H.265 あるいは H.264 を選択します。

4-4 項 [マスクング]



マスクング(プライバシーマスク)とは、カメラで撮影した画像の表示や録画の際に、特定の箇所をマスクングする機能です。

チャンネルごとに4つのマスクを使用できます。

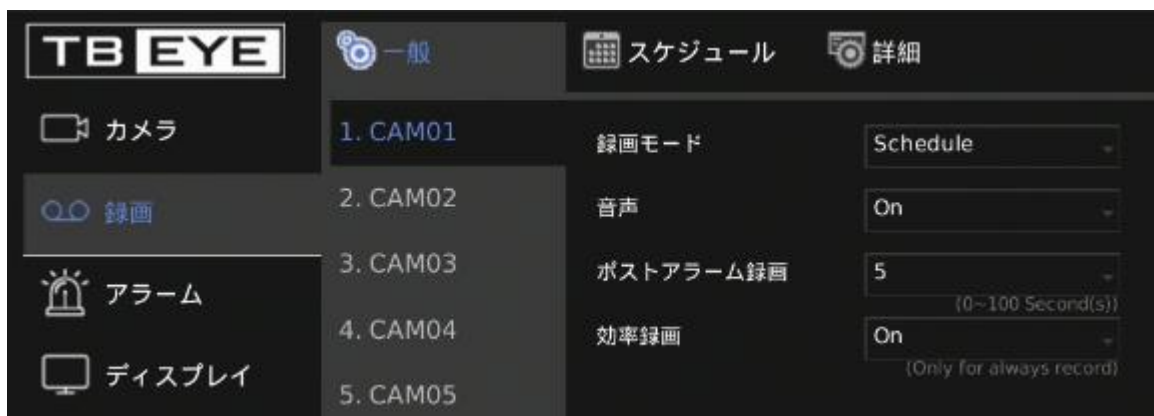
マスクングを設定するには、最初にマスクの1つを選択してから、画像上でマウスの左ボタンをクリックし、マウスをドラッグして長方形を描画します。



第5章 録画設定

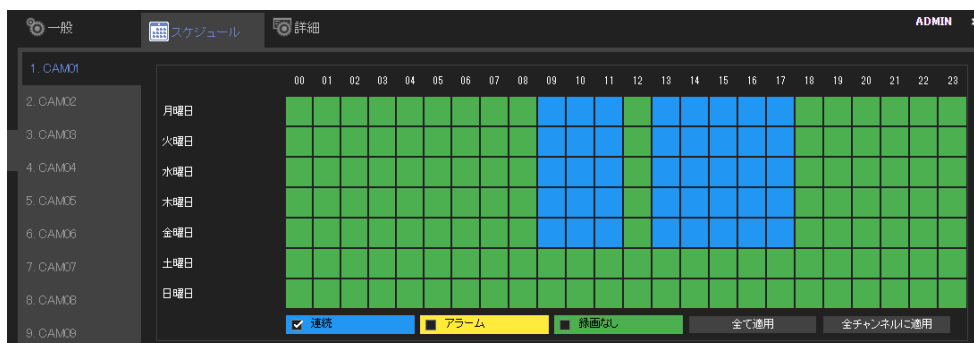
 をクリックして[LHR 設定]を開き、左側ペインの 録画]を押すと、[録画設定]ページが開きます。録画やスケジュールを調整するための設定オプションについて、以下に示します。

5-1 項 [一般]



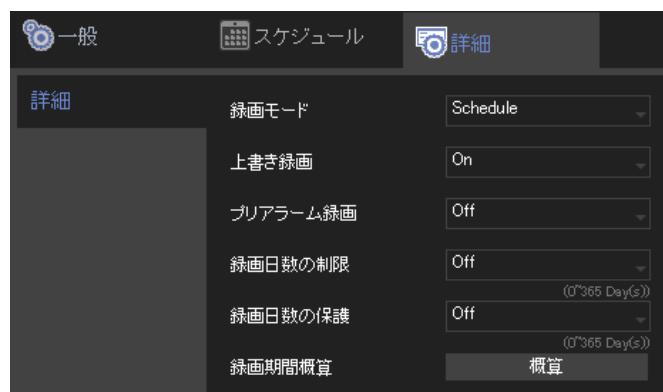
- **[録画モード]**: スケジュール録画のオン(Schedule)/オフを切り替えます。
スケジュール内容は 5-2 項のスケジュールで設定可能です。
- **[音声]**: 音声のオン/オフを切り替えます。(録画とライブに共通です。)
- **[ポストアラーム録画]**: イベント発生後の録画を有効にします。アラームが発生した後に LHR が録画する時間(秒)を設定します。
- **[効率録画]**: **[効率録画]**がオンになっている場合、アラーム発生時の録画フレームレートは事前設定値に調整されます(値は**[カメラ設定]**で設定可能)。アラーム発生時以外では LHR は比較的低いフレームレート(約 4~5FPS)で録画します。通常は"OFF"で使用してください。
備考: **[録画モード]**が**[スケジュール]**に、**[録画スケジュール]**が**[連続]**に設定されている必要があります。

5-2 項 [スケジュール]



録画スケジュールを変更するには、録画タイプを、[連続](連続録画)、[アラーム](アラームが発生したときだけ録画)または[録画なし](録画オフ)から選択し、変更する日付と時刻をクリックして表示色を変更します。[全て適用]をクリックすると、録画タイプに関してユーザーが選択した内容がすべての日付と時刻に適用されます。

5-3 項 [詳細]



- **[録画モード]:** [Manual]録画(手動録画)または[Scheduled]録画のいずれかを選択します。
- **[上書き録画]:** ストレージが一杯になった場合の古いファイルへの上書きをオンにします。
- **[プリアラーム録画]:** アラーム発生前の期間の録画開始をオンにします。
- **[録画日数の制限]:** 録画する制限日数を設定します(制限日数を超えたデータは削除されます)。
- **[録画日数の保護]:** 録画データを保護する日数を設定します。(保護日数以内のデータは上書きされません)。
- **[録画期間概算]:** [概算]を押すと、HDD の空き容量に対する録画期間の概算を計算します。

備考: [録画期間概算]は、HDD 容量に対する現在の録画状況による概算となります。

実際の録画期間はスケジュール設定および映像により変化します。



- **[平均記録ビットレート]:** DVR が受信した現在の帯域幅に基づくビデオ ストリームの平均サイズ。
- **[平均記録サイズ]:** 現在インストールされているハードディスクに応じた使用可能な記録容量。
- **[平均記録時間]:** ハード ディスク サイズに基づいて記録できる推定日数。

第6章 アラーム設定

 をクリックして[LHR 設定]を開き左側ペインの  **アラーム**を押すと、[アラーム設定]ページが開きます。設定オプションについて以下に示します。

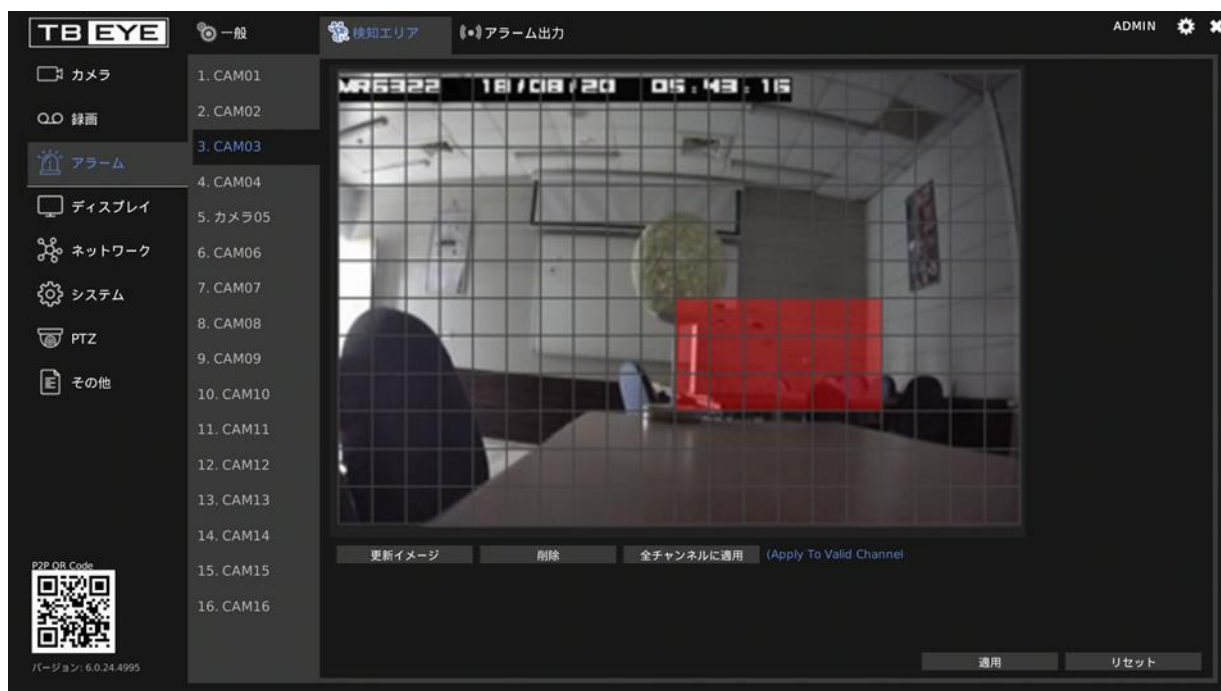
6-1 項 [一般]



- **[アラーム入力]**: アラームセンサーを、**[Normally Open](NO)**または**[Normally Closed](NC)**のいずれかに設定します。
- **[動き検出]**: 動き検出のオン/オフを切り替えます。また、6-2項の**[検知エリア]**タブで動き検出エリアも忘れずに設定してください。
- **[検知感度]**: 動き検出の感度を調整します。感度を高くするとアラームが発生しやすくなります。
- **[イベント時 Snapshot]**: アラームが発生したときにスナップショットをハードディスクドライブに保存する機能を有効にします。1-3 項**[アラームイベント]**画面などのサムネイルに使用されます。
- **[全チャンネルに適用]**を押すと、上記設定が全カメラチャンネルに適用されます。
- **[モーションポップアップ]**: 動きが発生したときに表示ビューが開きます。右側の時間指定でポップアップ時間を設定します。
- **[アラーム文字列指定]**: アラームが発生したときにチャンネルに表示するアラーム文字列を指定します。
- **[連動表示]**: アラームが発生したときの表示ビューのオン/オフを切り替えます。
- **[カメラ/ビュー]**: アラームが発生したときの表示ビューをカメラまたはビューのいずれかに切り替えます。
- **[コンテンツ]**: **[カメラ]**: 選択されているチャンネルに表示を切り替えます。 **[ビュー]**: 選択されている分割ビューグループに表示を切り替えます。
- **[アラームポップアップ]**: アラーム入力が発生したときに表示ビューが開きます。右側の時間指定でポップアップ時間を設定します。

備考: センサー入力を検出するために 300msec 以上入力を継続する必要があります。

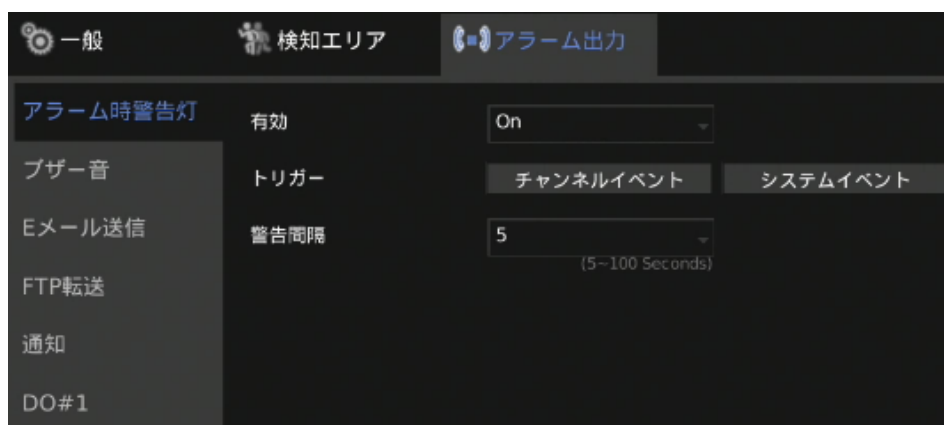
6-2 項 [検知エリア]



グリッド上でクリック&ドラッグ操作を行って、動き検出エリアを強調表示(赤色)にします。**[全てのチャンネルに適用]**をクリックすると、このエリアがすべてのカメラチャンネルに適用されます。

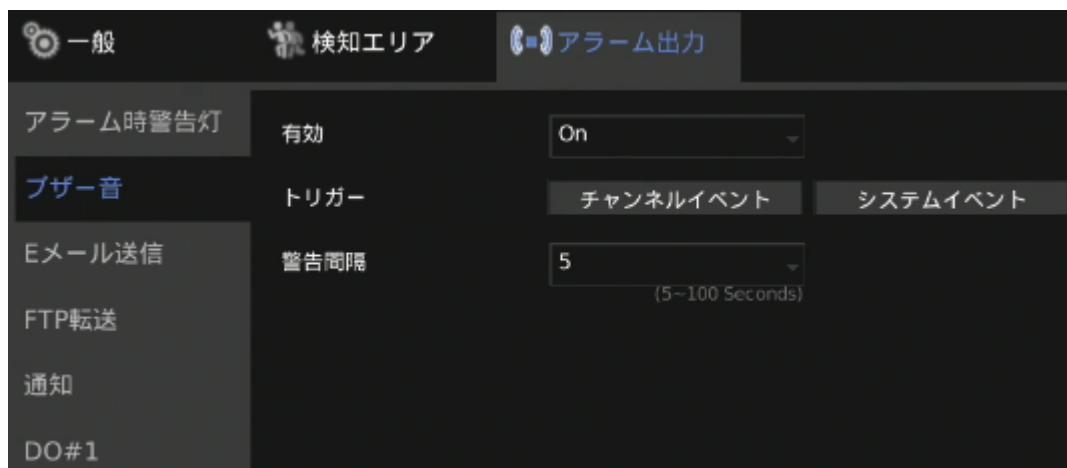
6-3 項 [アラーム出力]

6-3-1 項 [アラーム時警告灯]



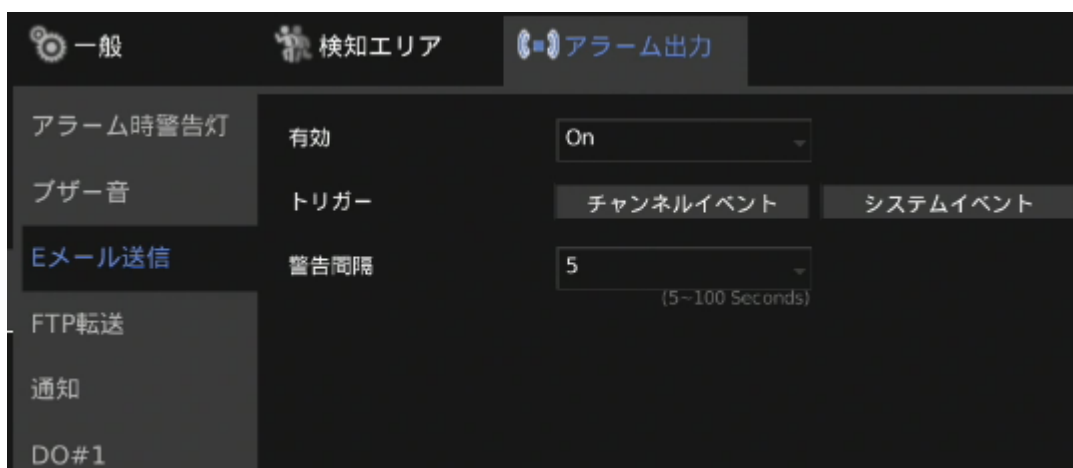
- **[有効]**: [On]を選択すると本体前面のアラーム LED(赤色)が有効になります。
- **[トリガー]**: 詳細は、前述の**[チャンネルイベント]**と**[システムイベント]**の項を参照してください。
- **[警告間隔]**: アラームが発生したときの LED の点滅間隔を設定します。

6-3-2 項 [ブザー音]



- **[有効]:** [On]を選択するとブザーが有効になります。
初期値 [On]
- **[トリガー]:** 詳細は、前述の[チャンネルイベント]と[システムイベント]の項を参照してください。
初期値 [HDD S.M.A.R.T.異常] [HDDトラックエラー] [ファン・エラー]が有効
- **[警告間隔]:** アラームが発生したときにブザー音を鳴らす間隔を設定します。

6-3-3 項 [Eメール送信]



- **[有効]:** [On]を選択すると電子メールの送信が有効になります。
- **[トリガー]:** 詳細は、前述の[チャンネルイベント]と[システムイベント]の項を参照してください。
- **[警告間隔]:** アラームが発生したときにアラーム通知電子メールを送信する頻度を設定します。

6-3-4 項 [FTP 転送]



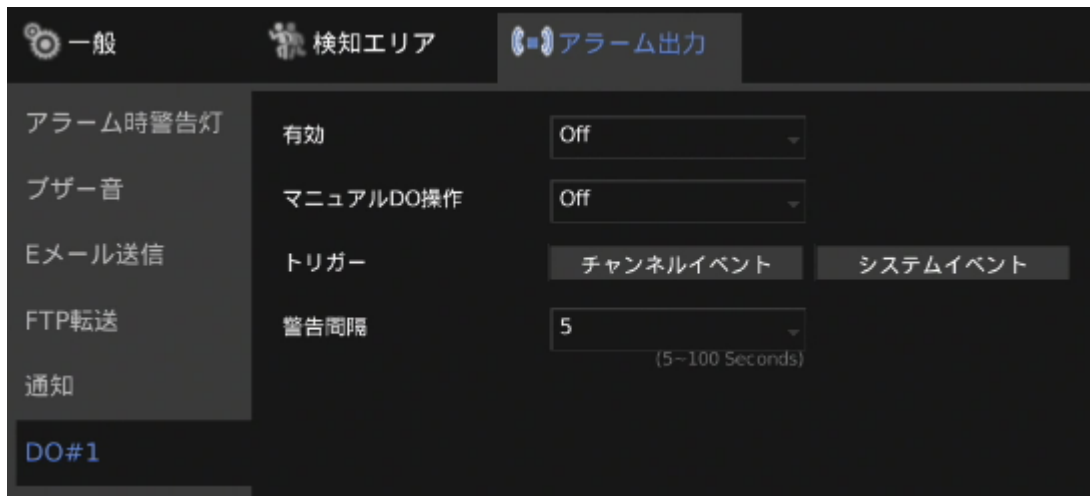
- **[有効]:**[On]を選択すると FTP 送信が有効になります。
- **[トリガー]:**詳細は、前述の[チャンネルイベント]の項を参照してください。
- **[警告間隔]:**アラームが発生したときに画像ファイルを FTP サーバーに送信する頻度を設定します。

6-3-5 項 [通知]



- **[有効]:**[On]を選択するとモバイルアプリへのプッシュ通知の送信が有効になります。
- **[トリガー]:**詳細は、前述の[チャンネルイベント]の項を参照してください。
- **[警告間隔]:**アラームが発生したときにアプリにプッシュ通知を送信する頻度を設定します。

6-3-6 項 DO#1(手動 DO 操作)

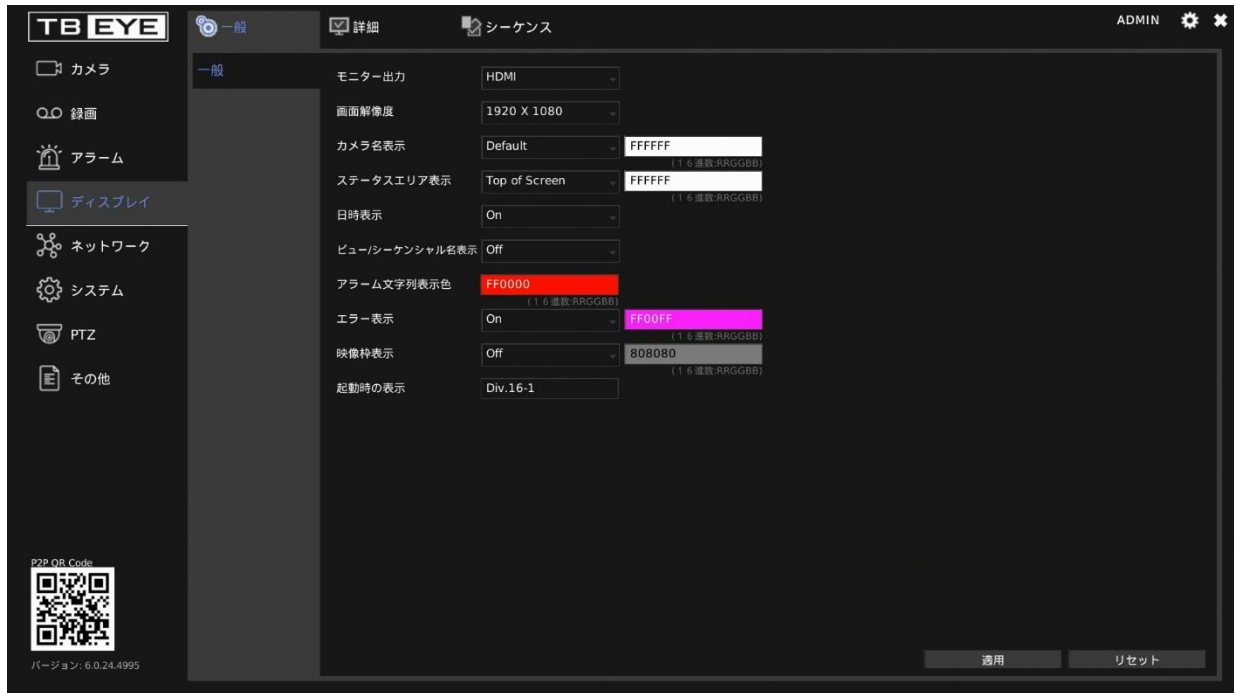


- **[有効]:** [On]を選択すると DO 出力が有効になります。
- **[マニュアル DO 操作]:** [On]を選択すると直接 DO 操作が有効になり、対応する DO 番号アイコンがライブ画面に表示され、クリックすると操作できます。
- **[トリガー]:** 詳細は、前述の[チャンネルイベント]と[システムイベント]の項を参照してください。
- **[警告間隔]:** DO 出力の間隔を設定します。

第7章 表示設定

【ディスプレイ】には、解像度、デフォルトの分割ビューの数、その他のオプションなど、いくつかの調整可能な LHR パラメーターがあります。これらの設定値の詳細を以下に示します。

7-1 項 [一般]



- **[モニター出力]**: 出力モードを DVI と HDMI の間で切り替えます。
- **[画面解像度]**: ユーザーの画面に応じて画面の解像度を選択できます。
初期値 [1920×1080]
選択可能一覧 [1024×768] [1280×1024] [1440×900] [1920×1080] [3840×2160]
LHR-0410F では[3840×2160]はサポートしません。
- **[カメラ名表示]**: ローカルライブビュー画面の OSD の、カメラ名の位置を調整できます。右側のフィールドでは、画面に表示されるカメラ名の文字列の色を選択できます。
- **[ステータスエリア表示]**: ローカルライブビュー画面の OSD の、ステータスの位置を調整できます。右側のフィールドでは、画面に表示されるステータスの文字列の色を選択できます。
- **[日時表示]**: ローカルライブビュー画面の OSD の日付と時刻の有効/無効を切り替えます。
- **[ビューシーケンシャル名表示]**: 画面分割ビューの OSD のビューシーケンスのオン/オフを切り替えます。

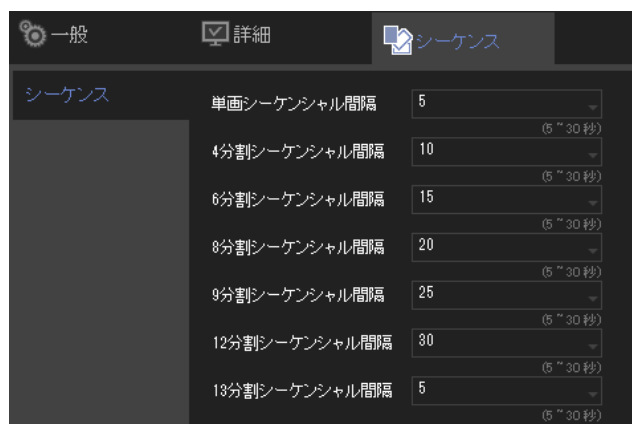
- **[アラーム文字列表示色]**:画面に表示されるアラームの文字列の色を選択できます。
- **[エラー表示]**:ライブビューのエラーメッセージのオン/オフを切り替えます。
- **[映像枠表示]**:画面分割ビューの境界線のオン/オフと色を選択できます。
- **[起動時の表示]**:LHR の起動処理完了後に表示されるビデオを指定します。
分割画面を選択可能です。

7-2 項 [詳細]



このページでは、LHR 出力の[明るさ]、[コントラスト]、[彩度]、[色相]を調整できます。[初期値に戻す]をクリックすると工場出荷時の設定に戻します。

7-3 項 [シーケンス]

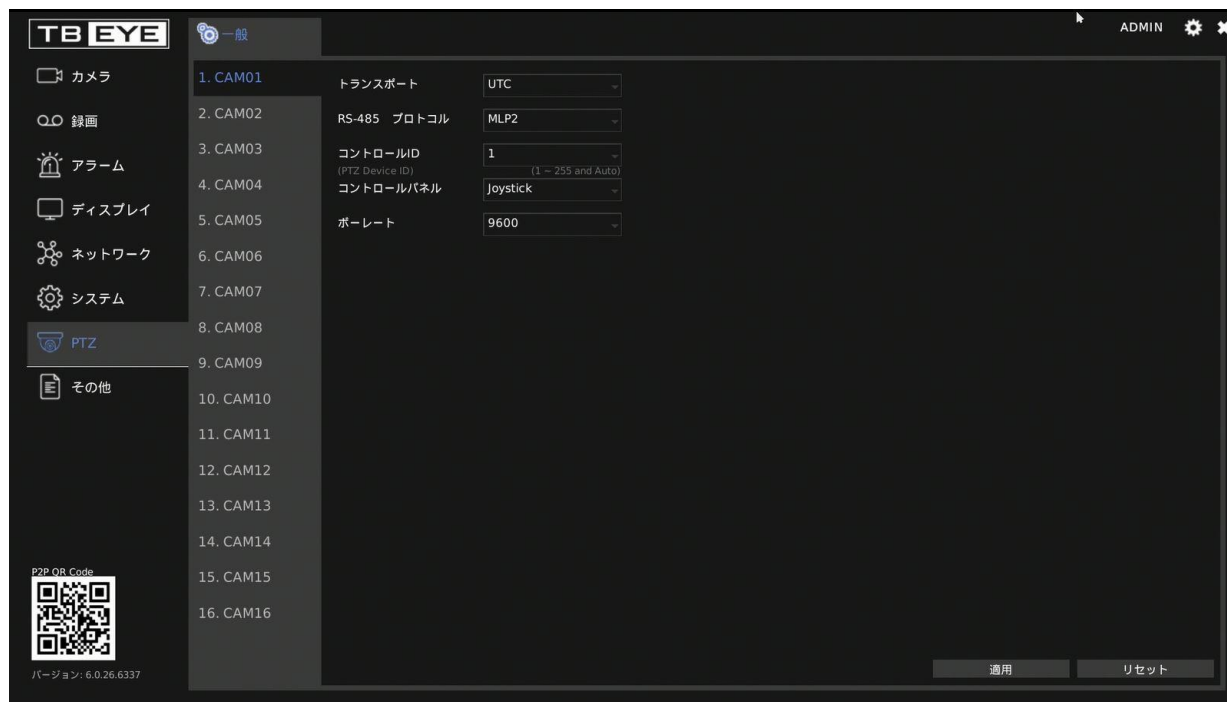


複数のカメラのビデオを順番に表示できます。LHR が監視対象の次のカメラまたはカメラグループへの切り替え動作を行うときの[シーケンシャル間隔]を指定できます。

第 8 章 PTZ 設定


 をクリックして[LHR 設定]を開き左側ペインの PTZ]を押すと、[PTZ 設定]ページが開きます。設定オプションについて以下に示します。

8-1 項 [一般]



- [トランスポート]: PTZ 制御プロトコルとして[UTC]または[RS-485]のいずれかを選択します。
- [RS-485 プロトコル]: RS-485 PTZ デバイスに使用する[RS-485 プロトコル]を選択します。
備考: [トランスポート]が[RS-485]に設定されている必要があります。使用できるか否かはモデルにより異なります。
- [コントロール ID]: カメラを制御するデバイスの ID を選択します。
- [コントロールパネル]: PTZ 操作パネルのタイプ。
- [ボーレート]: RS-485 通信のボーレート。

第9章 その他の設定

 をクリックして[LHR 設定]を開き左側ペインの **その他** を押すと、[その他設定]ページが開きます。設定オプションについて以下に示します。

9-1 項 [スマートフォン]



このタブでは、LHR とペアリングされているスマートフォンにアラーム通知を送信するように設定できます。iPhone、iPad の場合は App Store から、他の Android デバイスの場合は Google Play から、**IPVideo** をダウンロードできます。

- **[トリガー]**: 詳細は、前述の**[チャンネルイベント]**の項を参照してください。
- **[プッシュデバイスリスト]**: **[表示]**をクリックするとダイアログが開き、プッシュ通知を要求したすべての登録済みモバイルデバイスが表示されます。
- **[アプリダウンロード]**: QR コードをスキャンし、**IPVideo** をダウンロードします。

第 10 章 ストリーム

ネットワークの設定を完了しカメラを接続すると、インターネットブラウザでのリモート操作によるカメラのライブストリームの閲覧、および録画済みビデオの再生やビデオファイルのバックアップなど他の機能にアクセスできます。

備考: IE 11 以降または Chrome をお勧めします。

アドレスバーに LHR の IP アドレスまたはドメイン名を入力します。



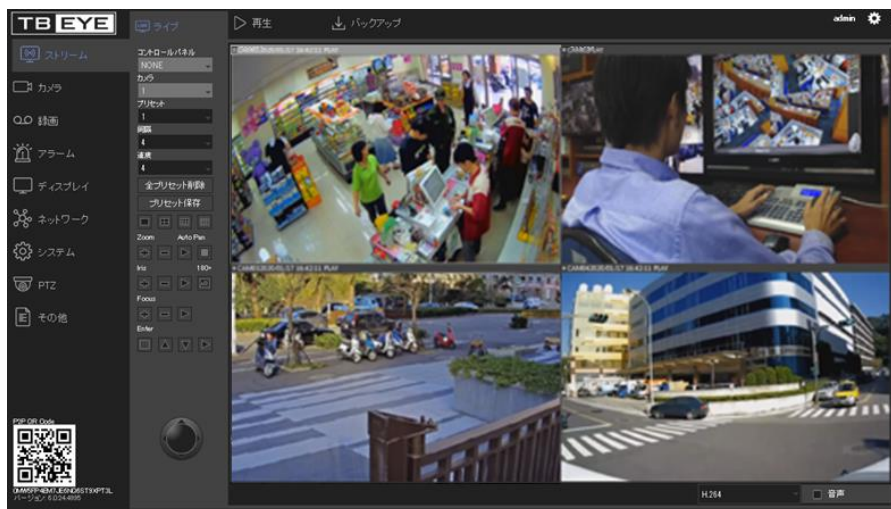
ログイン認証に必要な LHR のユーザー名とパスワードを入力します。



[ストリーム]メニューにログインします。

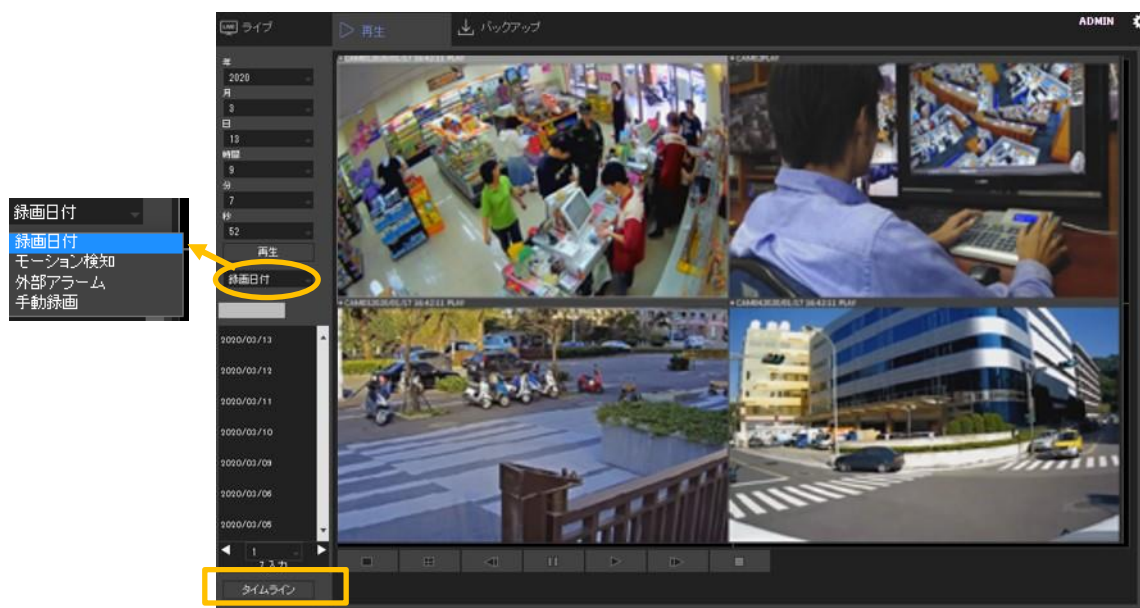
備考: LHR にリモートアクセスするには、対応するアクセス権限が必要です。

10-1 項 [ライブ]



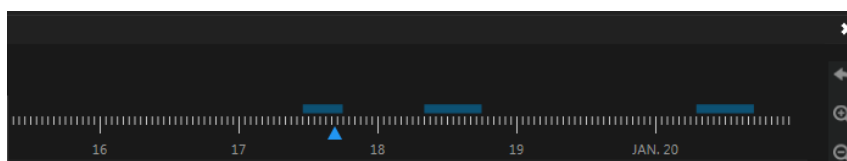
[ライブ]タブには、接続されているカメラの映像が表示されます。操作ボタンを使用して、カメラの動きや表示状態を制御できます。Chrome 利用時は最大 4 分割までの表示となります。

10-2 項 [再生]



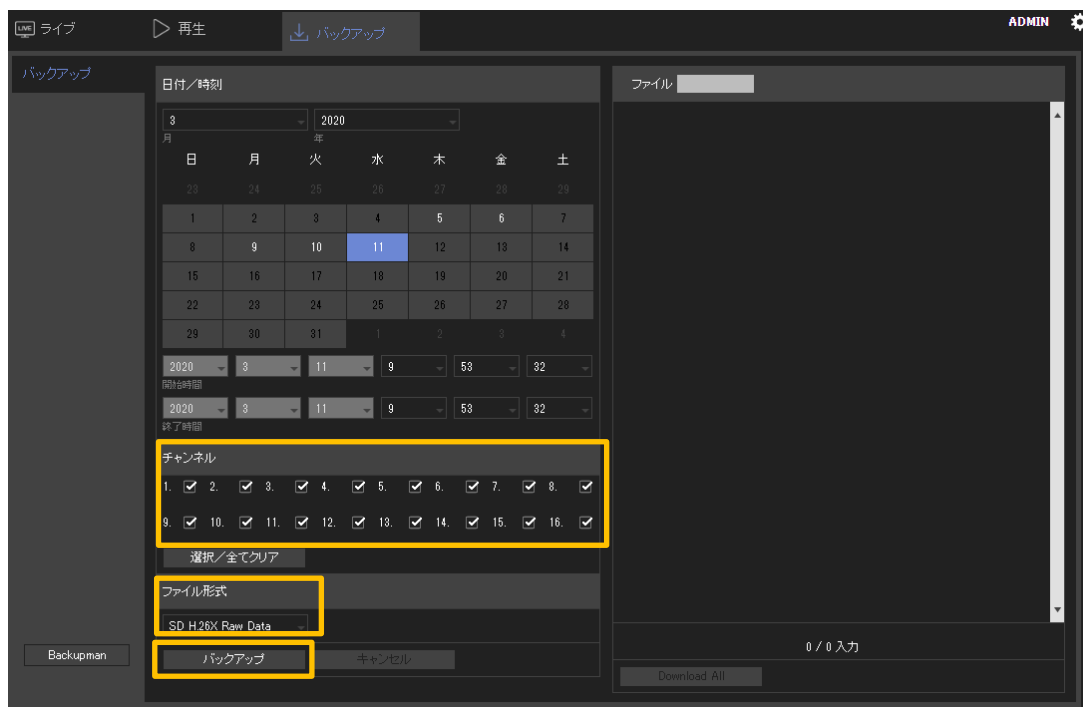
[再生]では、日付/時刻またはモーション検知/外部アラーム/手動録画のイベントから録画映像を再生することができます。

[タイムライン]ボタンを押すことでタイムラインを表示することが可能です。



備考:タイムラインの右上の ✕ アイコンをクリックすると、**[再生]**メニューに戻ります。

10-3 項 [バックアップ]



[バックアップ]では、日付/時刻、チャンネル、ファイル形式を選択して、録画済みビデオをバックアップできます。
[バックアップ]をクリックするとバックアップ処理が開始されます。

付録

IPVideo のインストール

iOSのApp StoreまたはAndroidのGoogle PlayでIPVideoを検索しダウンロードします。または、次に示すQRコードをスキャンしてダウンロードすることもできます。

IPVideo



Android



iOS





株式会社ティービーアイ
〒104-0031
東京都中央区京橋2-2-1京橋エドグラン

<http://www.tbeye.com>